

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れ
推進のための調査・実証事業
令和7年度事業結果の概要

目次

#	内容	
1	本事業の概要	P2
2	医療ツーリズム推進に係るワークショップ・セミナー	P5
3	観光から医療まで一貫して通訳できる人材育成研修	P13
4	モデル実証事業	P30
4.1	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	P31
4.2	株式会社十八親和銀行・株式会社みずほ銀行	P44
4.3	一般社団法人 倉敷成人病センター	P60
5	成果報告会	P75
6	本年度事業の振り返り及び次年度事業に向けての提言手引書	P82

1.本事業の概要

事業実施の背景・目的

医療ツーリズムに取り組もうとする地域や、現在取り組んでいる地域等に対して、情報やヒント、好事例を提供すること等により、日本における医療ツーリズムの推進に寄与することを目的として実施した。

背景

- 政府は、「観光立国推進基本計画」において、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組むことを掲げており、特に、「インバウンド回復」においては、令和7年に向けて全国で観光回復の起爆剤となる取組を集中的に展開することとしている。
- また、「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」においては、ビジネス、教育・研究、文化芸術・スポーツ・自然といったそれぞれの分野における取組によって、日本の魅力発信（プロモーション効果）や、リピーターとしての訪日及び国際相互理解の増進、我が国における新たな価値の創造につなげていくことを掲げている。
- 日本の優れた医療と地域資源を活かした観光要素を組み合わせた滞在プラン等を提供することは、日本の医療技術・サービスの更なる充実に寄与するほか、海外からの外国人受入れ推進、地方誘客や旅行消費額の拡大に繋がるとともに、諸外国の国民の健康寿命の延伸にも貢献できるものと期待されている。

目的

- 本事業においては、外国人の医療や観光におけるニーズを踏まえた医療ツーリズムの推進を各地域が自主的、かつ継続して取り組めるよう、実証事業の中で伴走支援等を行い、成功事例を作り上げるとともに、実証事業の中で蓄積された知見やノウハウを取りまとめ、広く周知する。

実施事業

医療と観光を組み合わせた滞在プランの造成、人材育成、海外発信を通じて、各地域が自立的に医療ツーリズムを推進できる体制を構築することを目的として、以下の事業を実施した。

実施事業

医療ツーリズム推進に係るワークショップ・セミナー

観光から医療まで一貫して通訳できる人材育成研修

モデル実証事業

成果報告会

手引書骨子案の作成

2.医療ツーリズム推進に係るワークショップ・セミナー

医療ツーリズムに関する情報共有の場としてのワークショップ・セミナーの開催

12月11日にマーケティングをテーマにしたセミナー・交流会を実施、国内の有識者の他、台湾、韓国の医療機関から事例を紹介した。



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和7年度

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れ推進のための調査・実証事業

セミナー&交流会

本セミナーでは、地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れを実際に取り組んでみたものの、なかなか成果が出ずに悩んでいる方に向けて、海外のマーケティング戦略・取組の事例を紹介します。登壇者によるパネルディスカッション・QA、交流会を通じて、具体的にどのように取り組めばよいか、参加者の皆様に新たな気づきを提供します。実践的な情報収集、ネットワーキングの場として、ぜひご活用ください。

開催日時・会場

2025年12月11日 (木)

会場

TKP東京駅カンファレンスセンター ホール8E
住所：東京都中央区八重洲1-8-16 新橋町ビル
アクセス：JR線 東京駅 八重洲中央口 徒歩1分、
東京メトロ丸の内線 東京駅 自由通路経由 徒歩7分
URL：https://www.kashikaigishitsu.net/facilities/cc-tokyoeki-central/room_detail/6560/

14:00～17:00 (13:30開場)
会場・WEBのハイブリッド開催

参加対象者

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れに実際に取り組んでいる、又は取組を検討している医療機関、観光事業者、自治体などの担当者
※会場参加は既に取り組んでいる方限定

事前課題 (任意)

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れのPRモーションの際に利用している、もしくは利用を予定しているプレゼン資料を提出
※(希望者のみ) 交流会ではプレゼン資料を提出頂いた方に向けた、登壇講師から個別レビューを実施予定

スケジュール・登壇者

14:00-14:05	イントロダクション	運営事務局 (フロンティア・マネジメント株式会社)
14:05-14:55	基調講演	① 岡村世里奈 (国際医療福祉大学大学院 医療経営管理分野 & 医療通訳・国際医療マネジメント分野 准教授) ※会場登壇
		② 別府 佳代子 (一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 事業部長) ※会場登壇 Mingyen Wu DDS, MPH (Medical Excellence TAIWAN CEO) ※web登壇
14:55-15:35	マーケティング事例の紹介	① Ai Chi Chou (China Medical University Hospital, International Center CEO) ※web登壇
		② Choi Youn Hwan (Bright Eye Clinic, Intl. business Dept. General Manager) ※web登壇
15:35-15:45		(休憩)
15:45-16:30	パネルディスカッション・QA	全登壇者
16:30-17:00	交流会 ※会場参加者限り	登壇者※会場登壇、参加者 ※会場参加者 → 詳細は次のページ参照

お申込み先

申込み締め切り

2025年12月10日(水) 17:00



<https://event.event-planner.net/event/bundlesite/s818nps>

上記のリンクからお申込みフォームにアクセスください。
※複数人で視聴希望の場合も、各一人ずつ申込みフォームにご記入ください
※会場参加は上限があります。申込状況によって、会場参加希望の場合でも、web参加となる場合があります。あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

フロンティア・マネジメント株式会社
(医療・観光_外国人受入事業事務局)
Healthcare_inbound@frontier-mgmt.com
(平日 9:30-17:30) ☎090-3914-1005 (柳田)
☎080-3588-2602 (大戸)

登壇者プロフィール



岡村世里奈	国際医療福祉大学大学院 医療経営管理分野 & 医療通訳・国際医療マネジメント分野 准教授
登壇セッション：	基調講演①、パネルディスカッション・QA、交流会
経歴：	上智大学法学部卒業、同大学院法律学研究科博士課程前期修了(法学修士)。同大医療福祉学部医療経営管理学科助手、The Beazley Institute for Health Law and Policy, School of Law, Loyola University of Chicago客員研究等を経て現職。



別府佳代子	一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 事業部長
登壇セッション：	基調講演②、パネルディスカッション・QA、交流会
Medical Excellence JAPAN (MEJ)：	日本の成長戦略の柱の一つである「健康・医療の国際展開の推進」という政府の方針の下、これを実践する中核的な組織として2013年に設立された一般社団法人。アウトバウンド推進事業及びインバウンド推進事業を実施している。



Mingyen Wu DDS	Medical Excellence TAIWAN CEO
登壇セッション：	基調講演②、パネルディスカッション・QA
Medical Excellence TAIWAN：	Medical Excellence Taiwan (MET) は、台湾政府が医療の国際化を推進するために設立した国家プラットフォームで、医療・産業・学術を結び役割を担っている。台湾の医療ブランドを海外に発信し、新南向政策のもと東南アジアとの医療連携や協力を積極的に進めている。



Ai Chi Chou	China Medical University Hospital CEO, International Center
登壇セッション：	事例紹介①、パネルディスカッション・QA
China Medical University Hospital：	China Medical University Hospital は、1の大学と22の医療機関から構成する、台湾中部最大の医療機関グループで、2,000床超の病床を有する。MD Anderson Cancer Center の姉妹病院で、JCI認証や Newsweek 世界病院ランキングにも選出されるなど、国際的にも高い評価を受けている。

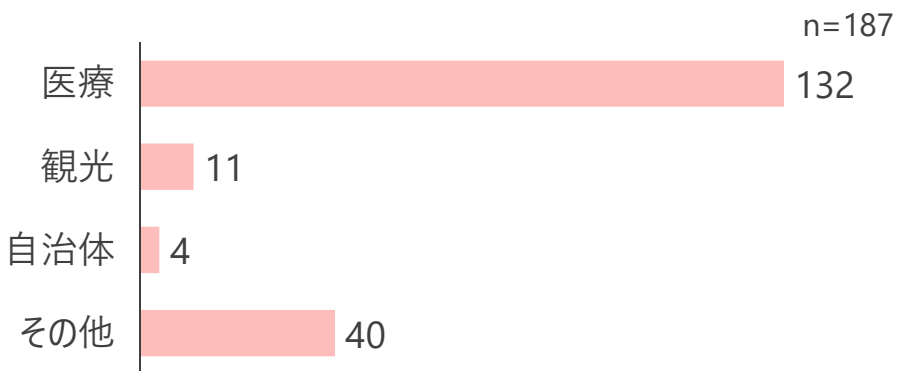


Choi Youn Hwan	Bright Eye Clinic, Intl. business Dept. General Manager
登壇セッション：	事例紹介②、パネルディスカッション・QA
Bright Eye Clinic：	ソウルの江南に所在する眼科クリニックで、アジアで初めてスマイルラシック(角膜を最小限に切開し、痛みや回復負担を軽減する視力矯正手術)を導入、韓国ではこれまでに約150万件のスマイルラシック手術が行われており、そのうち当院で13万件を実施。検査から手術、回復までを最短1日で完結できる高度な医療体制と、国際基準に基づく安全管理・多言語サポートにより、世界各国から多くの患者様が来院している。

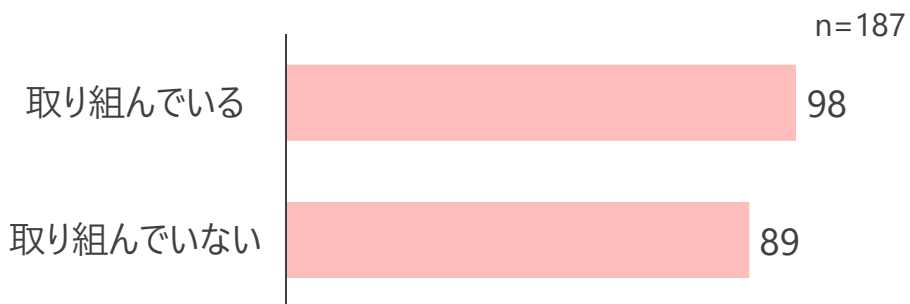
申し込み結果

187名の申し込みがあった。医療関係の参加者が多く、また国内以外では台湾からの申し込みがあり、医療インバウンドの関心度の高さが伺える。

所属団体の業種を教えてください



取り組み状況を教えてください



参加方法を教えてください

所属団体の所在地を教えてください

n=187

地域	人数	地域	人数	地域	人数	地域	人数
北海道	7	神奈川県	11	大阪府	7	福岡県	1
青森県	0	新潟県	0	兵庫県	4	佐賀県	0
岩手県	0	富山県	2	奈良県	2	長崎県	4
宮城県	1	石川県	1	和歌山県	0	熊本県	0
秋田県	0	福井県	0	鳥取県	0	大分県	0
山形県	0	山梨県	0	島根県	1	宮崎県	0
福島県	2	長野県	0	岡山県	4	鹿児島県	0
茨城県	0	岐阜県	1	広島県	0	沖縄県	5
栃木県	0	静岡県	2	山口県	0	Taiwan	21
群馬県	0	愛知県	6	徳島県	0		
埼玉県	1	三重県	0	香川県	0		
千葉県	3	滋賀県	0	愛媛県	0		
東京都	99	京都府	2	高知県	0		

実施状況

会場登壇で国内のアカデミア、有識者による基調講演を行い、web登壇で台湾・韓国の医療機関より、事例紹介を行った後、会場登壇者・web登壇者でパネルディスカッションを行った。

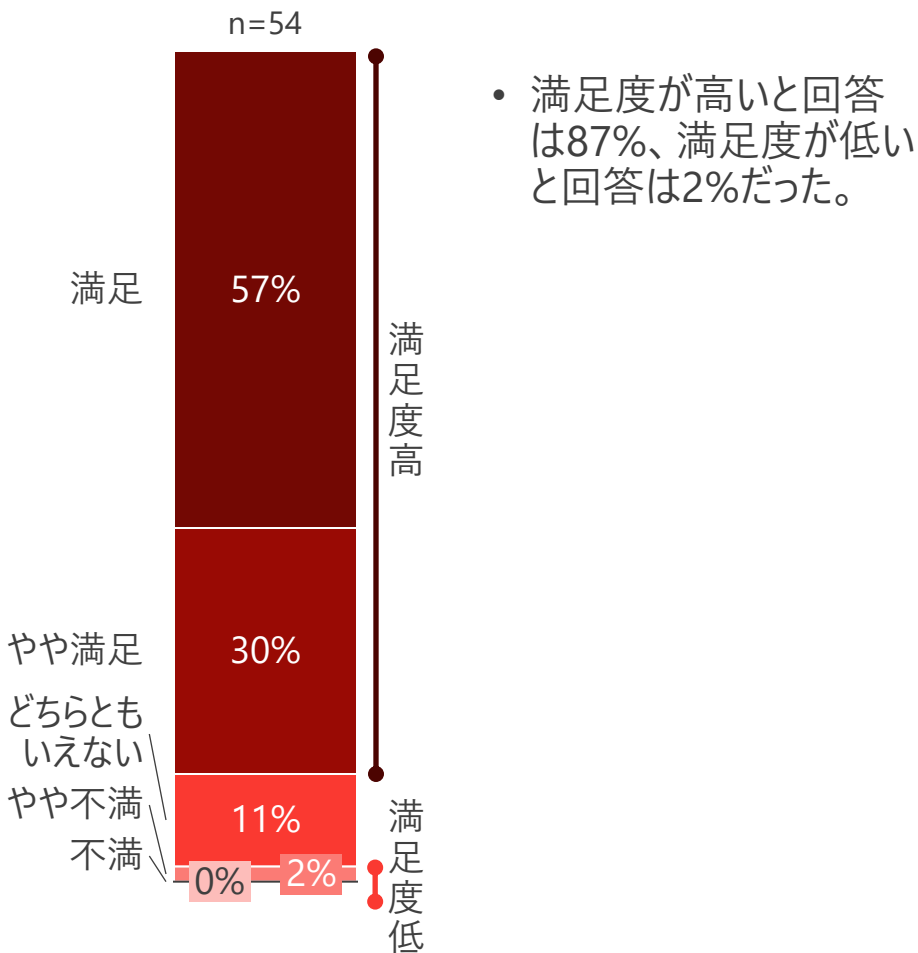
セミナーの実施状況



開催後アンケート（1/3）

マーケティング戦略・取り組みの他、価格設定の考え方に関する情報発信について、好評であり、実務レベルでの先行事例を紹介する情報発信が今後も望まれる。

情報提供に対する満足度を教えてください



満足度で選択した理由を教えてください

【医療機関】

- マーケティングの戦略が重要であると実感しました。初めは手を広げず絞って取り組まなければならないと改めて感じました。
- プライシングの考え方など実践的な内容が分かり、また、医療インバウンドのお手本ともいえる他国の状況が分かった。

【渡航支援企業】

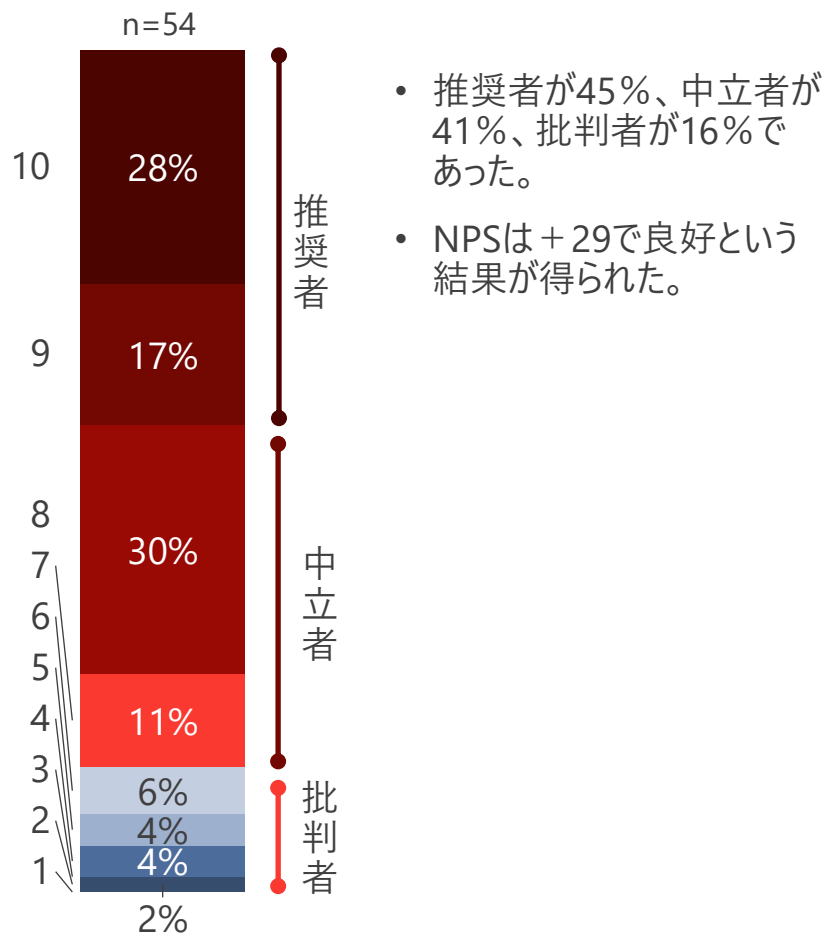
- 医療コーディネイト機関として日本の病院にどのように説明や提案を行えばよいのか、そして海外患者市場をどのように開拓・推進していくべきかについて、多くの示唆を得ることができました。
- 台湾や韓国など国民皆保険制度国での医療渡航市場開拓事例を学ぶことができた。

開催後アンケート（2/3）

医療機関ではマーケティングに関する意識に差があり、意識を高める、実際に検討する機会が求められる。

医療ツーリズムに関心のある関係者や知人などに、
本セミナーへの参加を推奨しますか

10（推奨する）～1（推奨しない）で評価ください



- 推奨者が45%、中立者が41%、批判者が16%であった。
- NPSは+29で良好という結果が得られた。

推奨度の理由を教えてください

【医療機関】

- 日本では診療に対するマーケティングはあまり推奨されない文化があるが、海外では当たり前のように行われている事を実感できると思った。
- 海外の事例は参考にはなるが、実際の現場でどのくらい役立つかは未知である。

【渡航支援企業】

- 医療支援業者なので、あまり直接的・具体的な関連内容ではなかった。しかし、他国での成功例などの話は勉強になりました。

【その他】

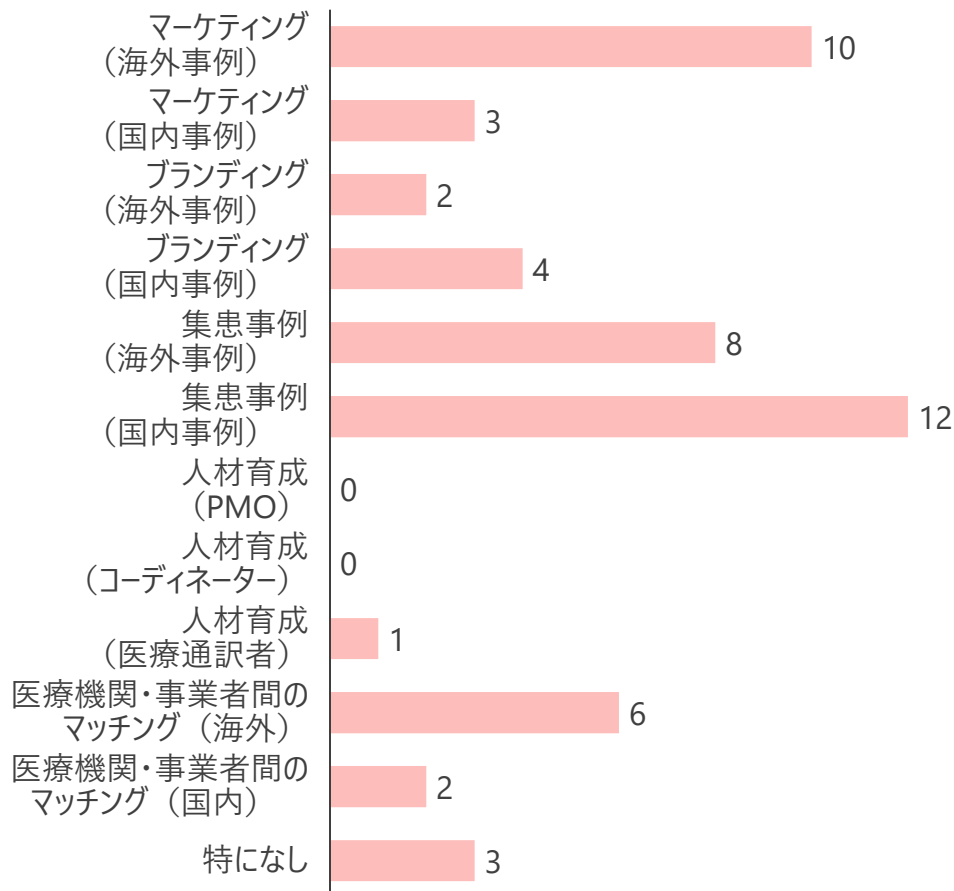
- 医療渡航に対して様々な観点を持って議論できるようにするにはこのような交流会への参加は積極的であるべき。

開催後アンケート（3/3）

医療機関と渡航支援企業の役割分担の明確化、また、日本型医療インバウンドによるマーケティングを検討したいという声があった。

医療ツーリズムに関するセミナー・交流会で知りたい
情報・得たい機会を選択してください

n=54



選択した理由を教えてください

【医療機関】

- 国内での集患の状況を紹介してもらい、どこが違ってどこに改善の余地があるのか知りたい。国内のマーケティングやブランディングも比較したい。
- エージェントとの関わり方は非常にデリケートだと思うので、その辺りもどのようにしているか伺いたい。
- 体制整備を行っても、現在では受け身で希望して来院される患者さんに対応しているだけになってしまうので、集患のためのチャンネルをどのように作るかに非常に興味がある。
- すでにコーディネーターとの契約があるため、ブランディングやマーケティングについては内部で検討する必要がない。

【渡航支援企業】

- 他国の人々に日本での医療ツーリズムを受けたい・みつけて貰える方法が必要であると考えてるので、踏み込んだ具体的なマーケティングが必要だと思う。

登壇者からのメッセージ

中国医薬大学附属病院の周執行長から、セミナー開催後、限られた人員と予算の中で国際患者サービスをどのように発展させるかのメッセージを頂いた。

中国医薬大学附属病院の周執行長からのメッセージ

資源が限られている状況では、「何でもやる」のではなく、すでに持っているものに焦点を当て、最大限に活かすことが重要だと考えています。

1. 既存の国際的なつながりをまず整理し、すでに縁のある国や地域、研修医師、過去の協力関係、研修生、頻繁な訪問者などに注目する。
2. 最初は1つの地域に絞り、継続的な患者の流れを構築する。多くの国に手を広げるのではなく、長期的に紹介が継続される安定したルートづくりを行う。
3. 適切なリーダーと院内パートナーを見つける。国際業務を「本当にやりたい」リーダーが必要であるが、必ずしも医師である必要はない。私たちの経験では、焦点を絞った地域、やる気あるリーダー、院内での良いコネクターがいれば、資源が限られている病院でも、時間をかけて信頼に基づいた国際患者サービスを構築することができる。

3.観光から医療まで一貫して通訳できる人材育成研修

実施概要

Aコース（観光通訳・観光ガイド経験者）とBコース（医療通訳経験者）向けに、医療通訳集中基礎講座を実施した。

募集要項

実施目的	医療（健診・治療）が通訳できる人材育成プログラムの構築
実施期間	令和7年12月上旬から令和8年2月下旬
対象者	A：英語もしくは中国語の全国通訳案内士もしくは地域通訳案内士、観光通訳士のいずれかの経験を有し、医療通訳への関心を持つ方 B：英語もしくは中国語の医療通訳士等、医療通訳の経験を有し、観光通訳へ関心を持つ方
定員	50名（A：25名、B：25名）
実施内容	オンライン研修：3回※開催日に参加できない場合の視聴、また復習用としてアーカイブ配信を予定 ロールプレイ：1回 実地見学：1回
その他	<ul style="list-style-type: none">無料（ロールプレイ、実地見学に参加する際の交通費・宿泊費等は自己負担となります）募集状況によってコースや実地見学の定員を変更する可能性があるオンライン講座は他コースの視聴が可能

Aコース研修プログラム

No.	開催方式	日時	タイトル	研修内容
A-1	オンライン (90分)	12月4日(木) 18:00-19:30	医療ツーリズム概論	<ul style="list-style-type: none"> 育成研修実施の背景 国内外の医療ツーリズムを取り巻く状況・政策動向 医療ツーリズムの実務 医療ツーリズムにおける通訳者の役割・期待されること
A-2	オンライン (90分)	12月12日(金) 18:00-19:30	医療通訳概論・倫理	<ul style="list-style-type: none"> 医療通訳とは 日本の医療制度・医療通訳のスキルセット、心構え、勉強法 医療通訳倫理、専門職としての意識と責任（通訳者として遵守すべき倫理）
A-3	オンライン (90分)	12月19日(金) 18:00-19:30	医療通訳実務	<ul style="list-style-type: none"> 医療通訳実技（健診を想定した情報収集、通訳業務の流れと対応等） 医療従事者と患者の文化的及び社会的背景についての理解 医療通訳者のコミュニケーション力（異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション、文化仲介） 医療通訳者の自己管理（健康管理、心の管理、感染予防）
A-4	ハイブリッド (1日)	1月31日(土) 9:00-17:00	ロールプレイング	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイングの進め方 ロールプレイング（5ケース）： <ul style="list-style-type: none"> 医療ツーリズムにおける健診受診の一連の流れ（①問い合わせ～②渡航前支援（既往症等の確認）～③健診受付～④健診受診～⑤結果説明（所見ありの場合の説明等）） 質疑応答・交流会
A-5	オンライン・実地	2月	医療機関の見学	<ul style="list-style-type: none"> 湘南鎌倉総合病院で、医療通訳実務の見学を行う（1回・半日） 事前に病院紹介、医療ツーリズムの取組、見学の注意事項等をオンラインで説明（1月上旬を予定） 12月下旬に研修参加者に向けて、希望日程を調整

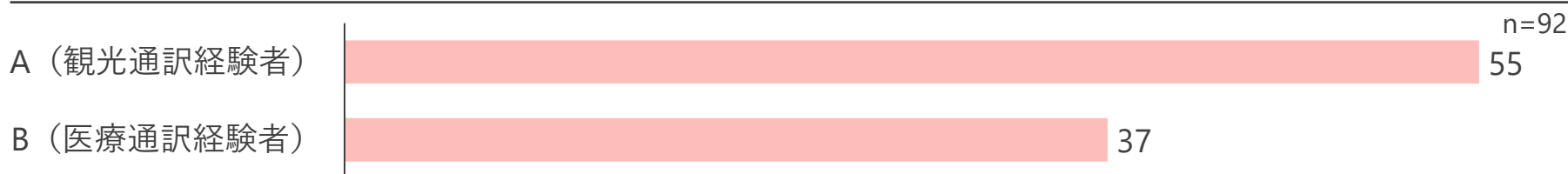
Bコース研修プログラム

No.	開催方式	日時	タイトル	研修内容
B-1	オンライン (90分)	12月4日(木) 18:00-19:30	医療ツーリズム概論	<ul style="list-style-type: none"> 育成研修実施の背景 国内外の医療ツーリズムを取り巻く状況・政策動向 医療ツーリズムの実務 医療ツーリズムにおける通訳者の役割・期待されること
B-2	オンライン (90分)	12月23日(火) 18:00-19:30	観光通訳概論・倫理	<ul style="list-style-type: none"> 観光通訳とは 日本の観光制度・観光通訳のスキルセット、心構え、勉強法 観光通訳倫理、専門職としての意識と責任（通訳者として遵守すべき倫理）
B-3	オンライン (90分)	1月15日(木) 18:00-19:30	観光通訳実技	<ul style="list-style-type: none"> 観光通訳実技（観光通訳における情報収集、通訳業務の流れと対応等） 観光客の文化的及び社会的背景についての理解 観光通訳者のコミュニケーション力（異文化コミュニケーション、対人コミュニケーション、文化仲介） 観光通訳者の自己管理（健康管理、心の管理、感染予防）
B-4	ハイブリッド (1日)	1月31日(土) 9:00-17:00	ロールプレイング	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイングの進め方 ロールプレイング（5ケース）： <ul style="list-style-type: none"> 医療ツーリズムにおける健診受診の一連の流れ（①問い合わせ～②渡航前支援（既往症等の確認）～③健診受付～④健診受診～⑤結果説明（所見ありの場合の説明等）） 質疑応答・交流会
B-5	ハイブリッド (半日)	2月	観光地の見学	<ul style="list-style-type: none"> 都内周辺での観光地における通訳実務・観光ガイドなどの見学

公募状況（1/6）

各コース合計で92名の申込みがあった。医療通訳で対応可能な場面では、一般外来、健診・人間ドックが対応可能と答えた申込み者が最多となった。

希望するコースを選択ください

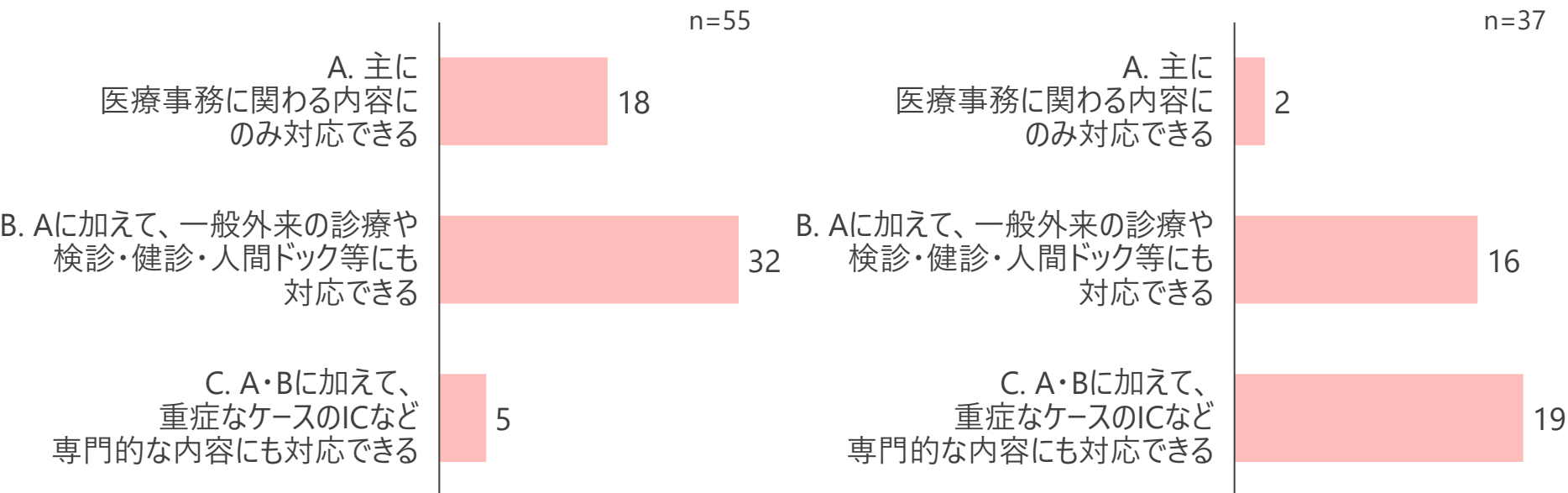


A（観光通訳経験者）：

医療関係で通訳の対応可能な場面を選択ください

B（医療通訳経験者）：

医療関係で通訳の対応可能な場面を選択ください

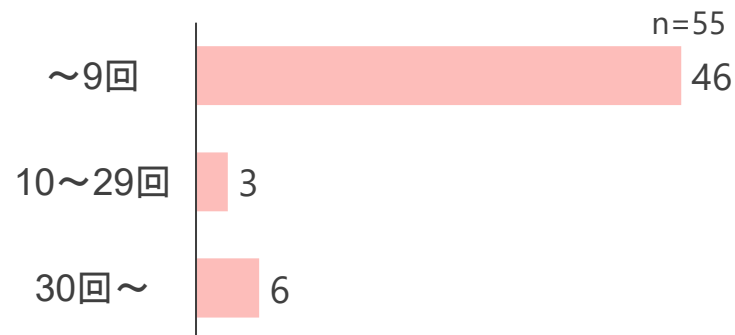


公募状況（2/6）

観光通訳経験者は観光通訳・医療通訳とも、対応件数にばらつきがあり、通訳経験を積む機会が望まれる。

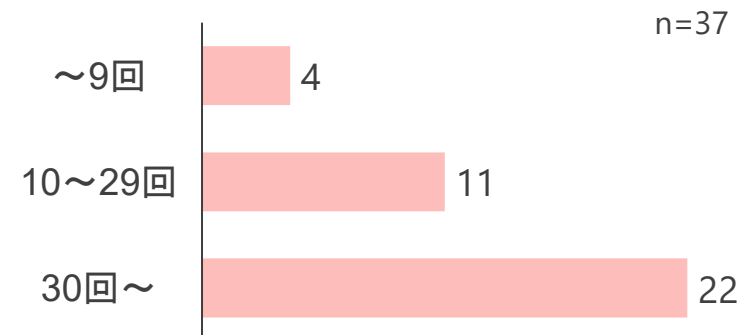
A（観光通訳経験者）：

医療通訳に対応した件数を教えてください



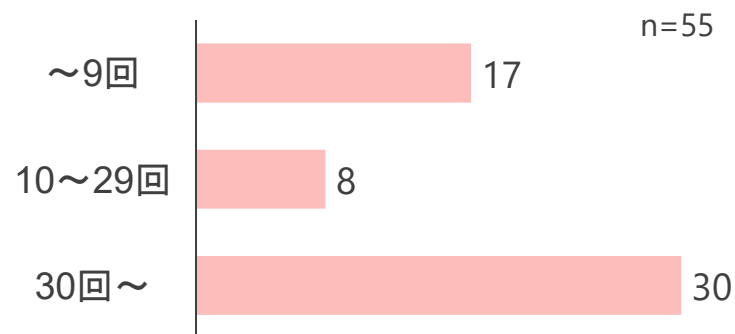
B（医療通訳経験者）：

医療通訳に対応した件数を教えてください



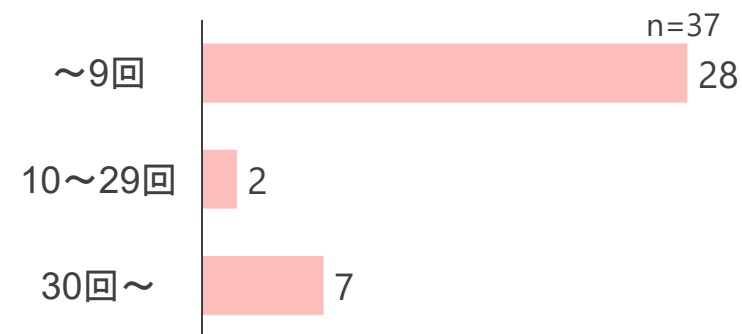
A（観光通訳経験者）：

観光通訳に対応した件数を教えてください



B（医療通訳経験者）：

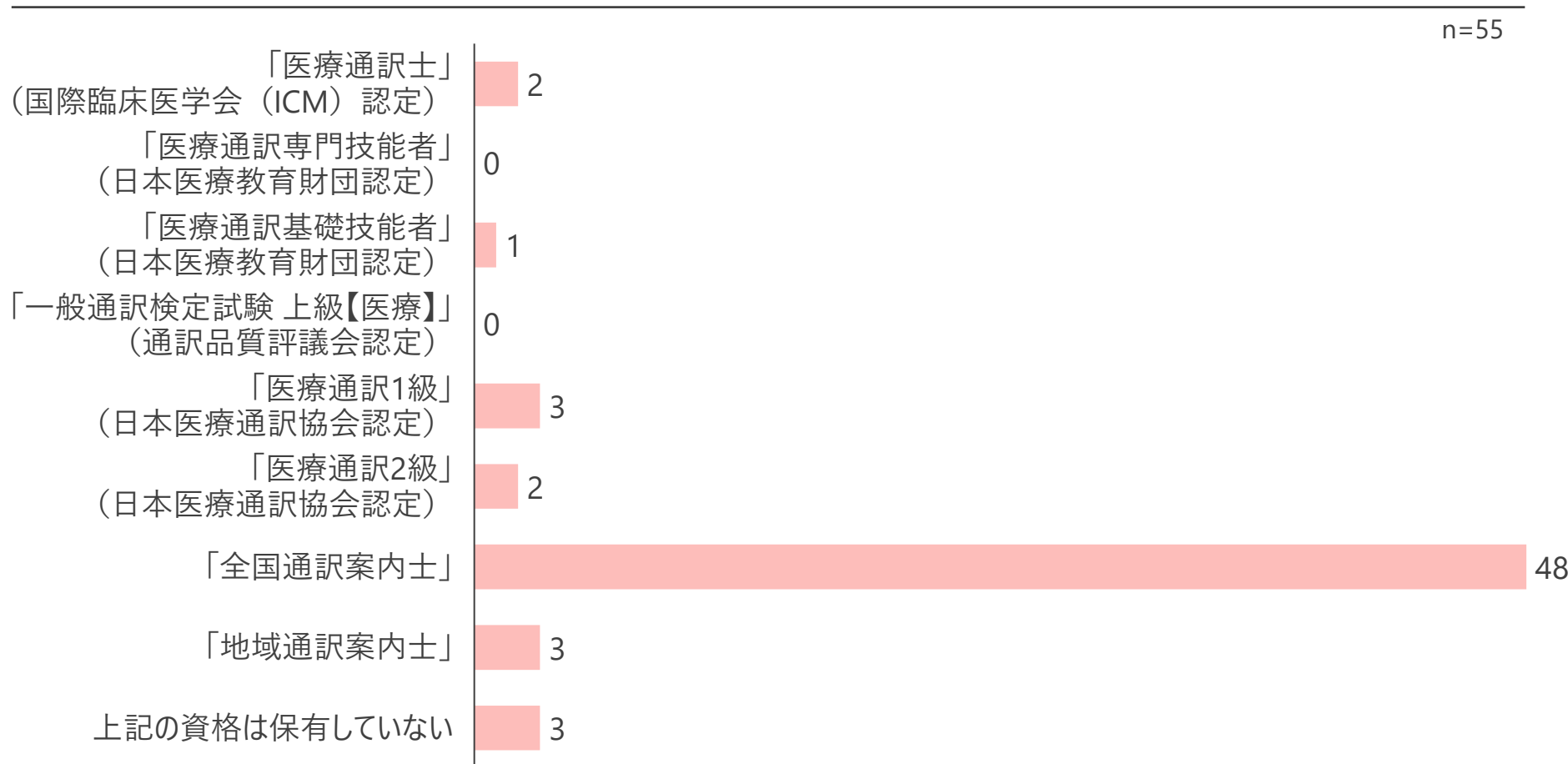
観光通訳に対応した件数を教えてください



公募状況（3/6）

観光通訳経験者では、全国通訳案内士・地域医療通訳案内士の有資格者が51名いた。

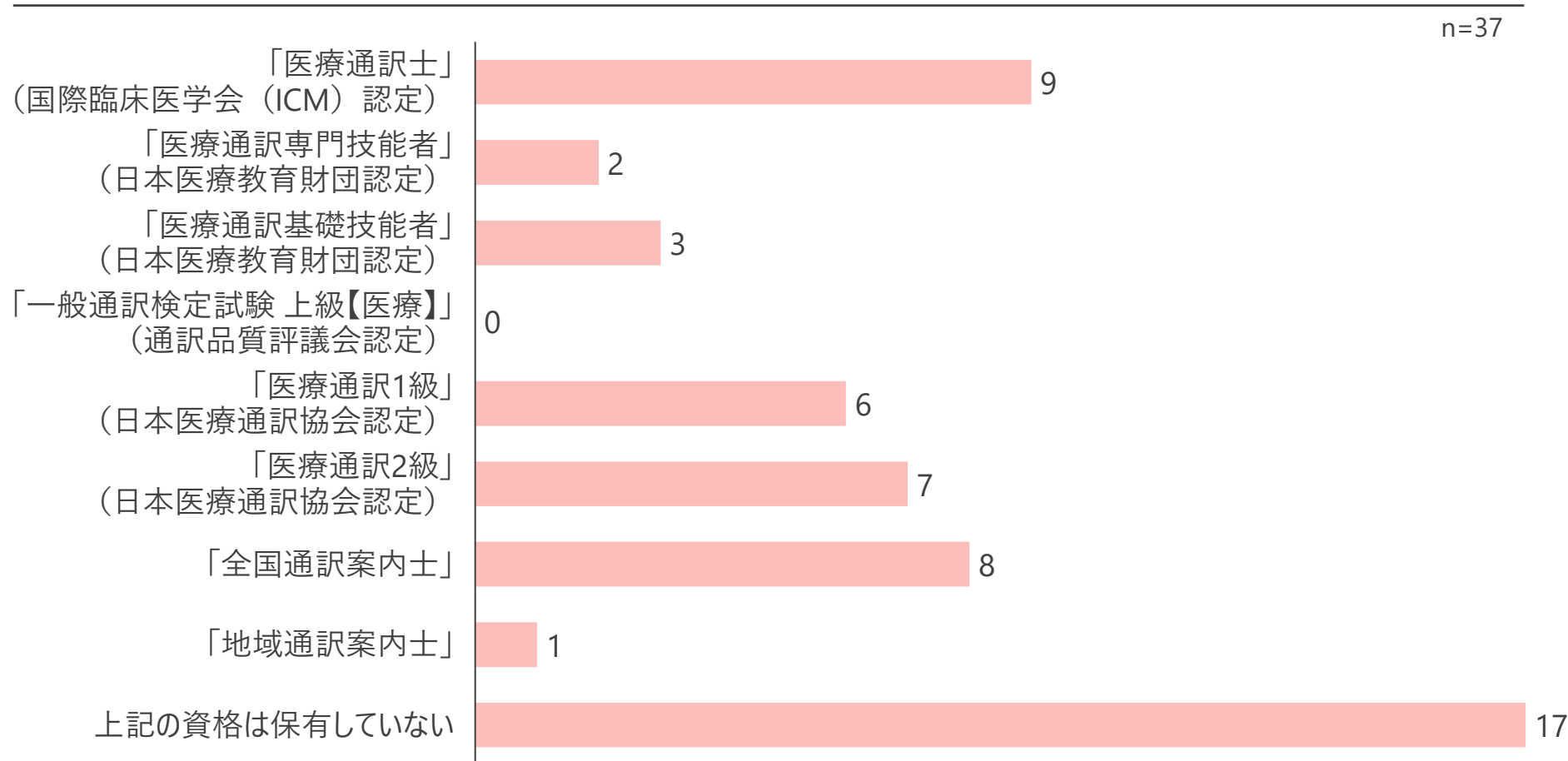
A（観光通訳経験者）：
保有する資格を教えてください



公募状況（4/6）

医療通訳経験者では、医療通訳の有資格者や、観光通訳の有資格者がいた。

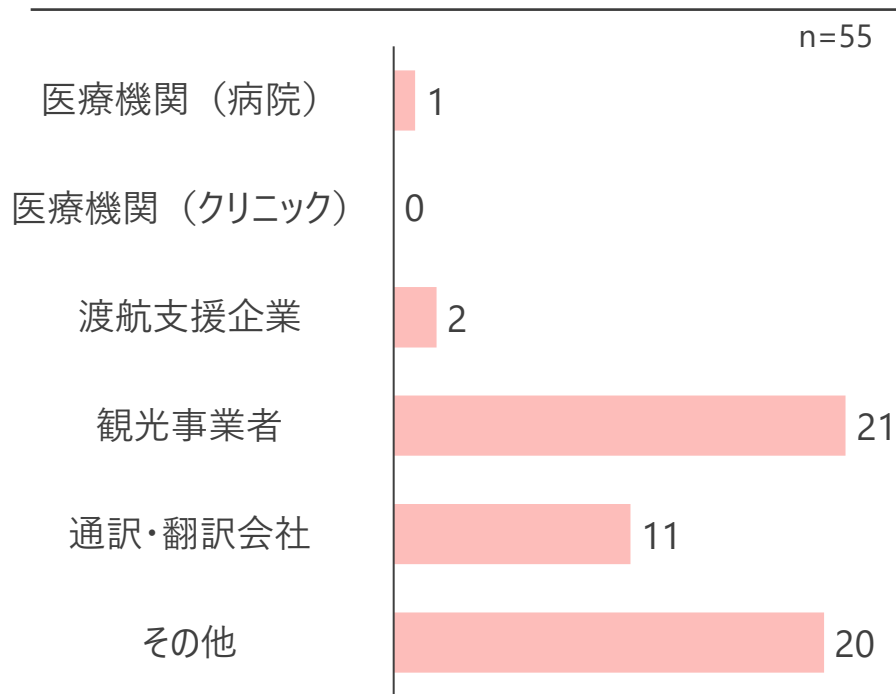
B（医療通訳経験者）：
保有する資格を教えてください



公募状況（5/6）

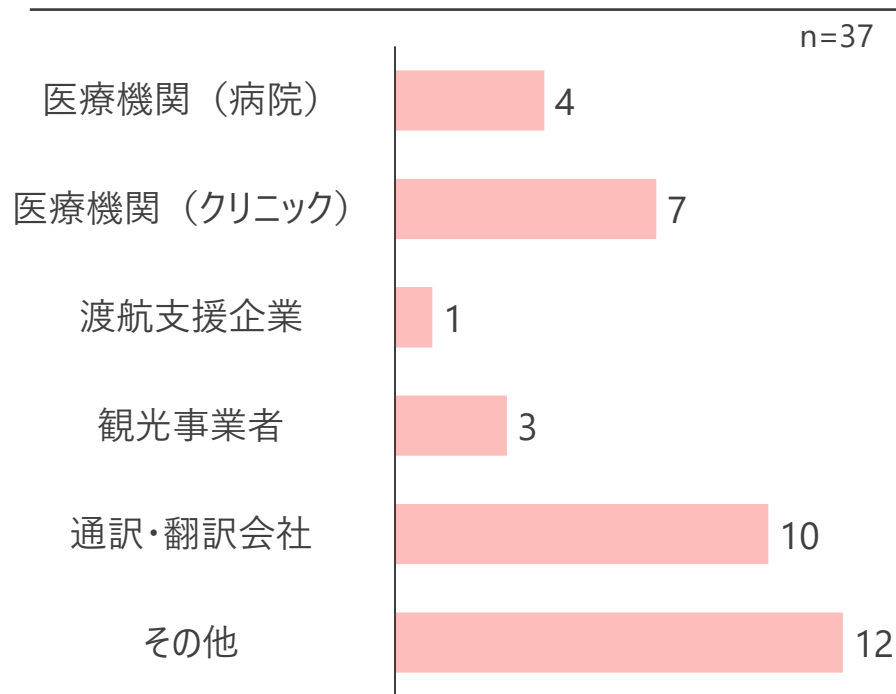
医療機関や観光事業者、通訳・翻訳会社、フリーランス等、多様な団体所属者から申込みがあった。

A（観光通訳経験者）：
所属団体の業種を教えてください



※その他：
フリーランス、コンサルタント、その他企業等

B（医療通訳経験者）：
所属団体の業種を教えてください



※その他：
フリーランス、非営利団体、官公庁、教育機関、その他企業等

公募状況（6/6）

申込みは主に1都3県からあった。また、医療通訳と観光通訳の両方を学んだものの、経験や就労機会が少ないという意見があった。

所属団体の所在地を教えてください

地域	人数	地域	人数	地域	人数	地域	人数
北海道	0	神奈川県	14	大阪府	6	福岡県	1
青森県	0	新潟県	0	兵庫県	4	佐賀県	0
岩手県	0	富山県	0	奈良県	2	長崎県	0
宮城県	0	石川県	0	和歌山県	0	熊本県	1
秋田県	0	福井県	0	鳥取県	0	大分県	0
山形県	0	山梨県	0	島根県	0	宮崎県	0
福島県	0	長野県	0	岡山県	0	鹿児島県	0
茨城県	2	岐阜県	0	広島県	0	沖縄県	1
栃木県	0	静岡県	3	山口県	0		
群馬県	0	愛知県	1	徳島県	0		
埼玉県	5	三重県	1	香川県	0		
千葉県	9	滋賀県	1	愛媛県	0		
東京都	35	京都府	3	高知県	1		

受講前のご意見・ご質問

- 医療通訳士の勉強をしたものの、住まいの近くの総合病院を見る限り英語を理解する患者さんは数も限られ需要がない感じなので現状観光ガイドばかりをしています。
- 通訳ガイド、医療通訳両方を学ばれた方は、私の周囲には多いのですが、実際の就労、経験を積む機会に恵まれにくい状況です。

実施状況

会場で医療通訳ロールプレイングを実施、湘南鎌倉総合病院では医療通訳の実務を見学した。明治神宮では観光ガイドの実務見学及びロールプレイングを行った。

【A-4】【B-4】医療通訳ロールプレイング



【A-5】医療機関実地見学（湘南鎌倉総合病院）



【B-5】観光地実地見学（明治神宮）



医療通訳基礎講座・参加者集計

Aコース（観光通訳・ガイド経験者）、Bコース（医療通訳経験者）を実施、オンライン研修では、医療ツーリズム概論や医療通訳（概論・倫理・実務）に多くの参加者が集まりました。

オンラインパート参加者数（名）

	申込 全体	A-1・B-1 医療ツーリズム概論		A-2 医療通訳 (概論・倫理)		A-3 医療通訳 (実務)		B-2 観光通訳 (概論・倫理)		B-3 観光通訳 (実務)	
		リアルタイム	アーカイブ	リアルタイム	アーカイブ	リアルタイム	アーカイブ	リアルタイム	アーカイブ	リアルタイム	アーカイブ
Aコース	55	44	25	49	11	47	15	18	6	5	8
Bコース	37	35	20	18	7	19	4	18	6	15	8
合計	92	79	45	67	18	66	19	36	12	20	16

※赤字:各コースリアルタイム参加数上位3プログラム

ロールプレイング・見学パート参加者数（名）

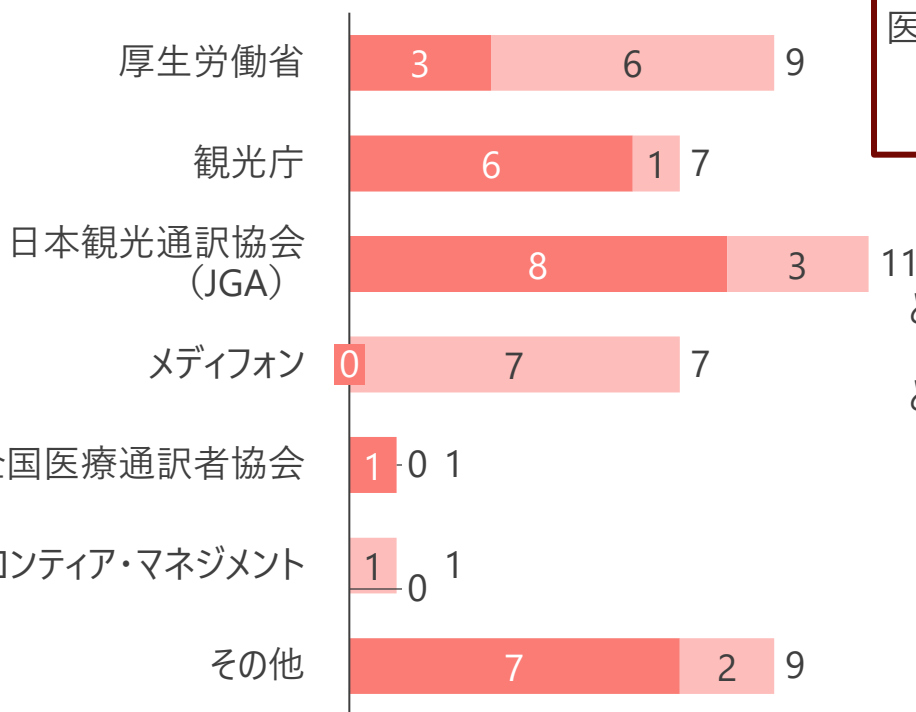
	申込 全体	A-4・B-4 医療通訳 ロールプレイング		A-5 医療機関実地見学	B-5 観光地実地見学	
		英語	中国語	英語	英語	中国語
Aコース	55	15	4	18	-	-
Bコース	37	5	7	-	9	5
合計	92	20	11	18	9	5

開催後アンケート (1/5)

本講座への申込み理由では、医療ツーリズムへの関心、医療通訳の専門性を高めたい、が上位となった。

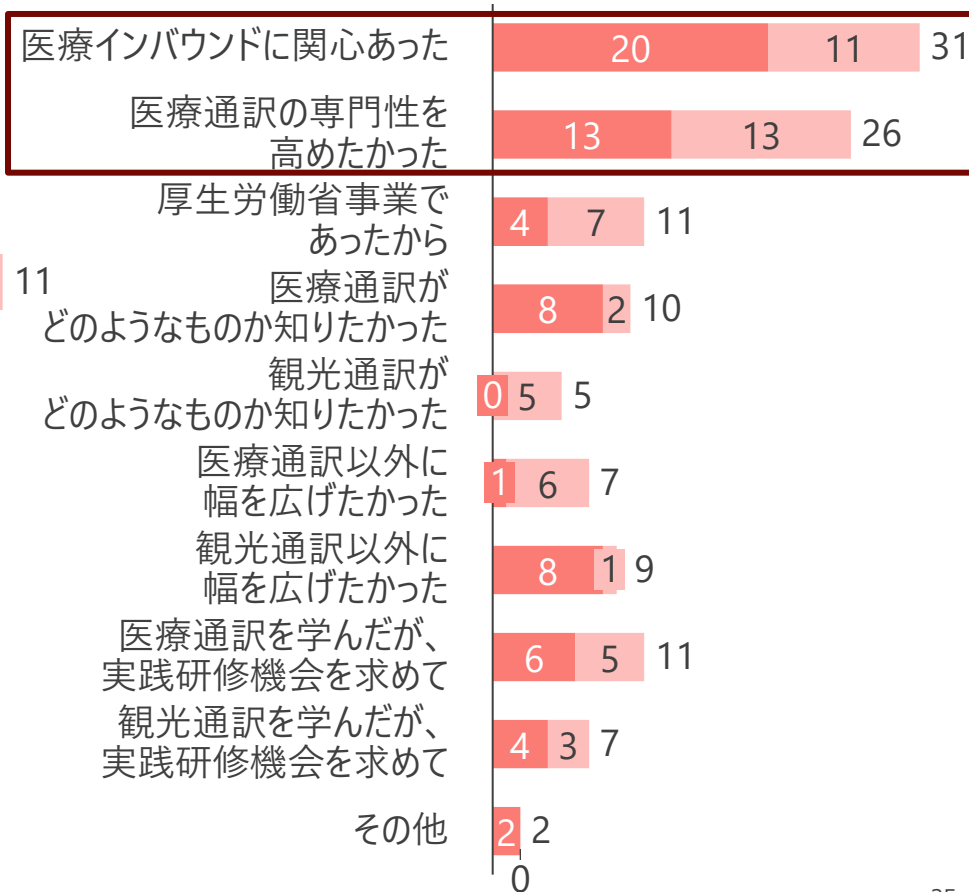
本講座はどのような媒体で知りましたか

■ Aコース (n=25) ■ Bコース (n=20) n=45



本講座を申込みをした理由を教えてください

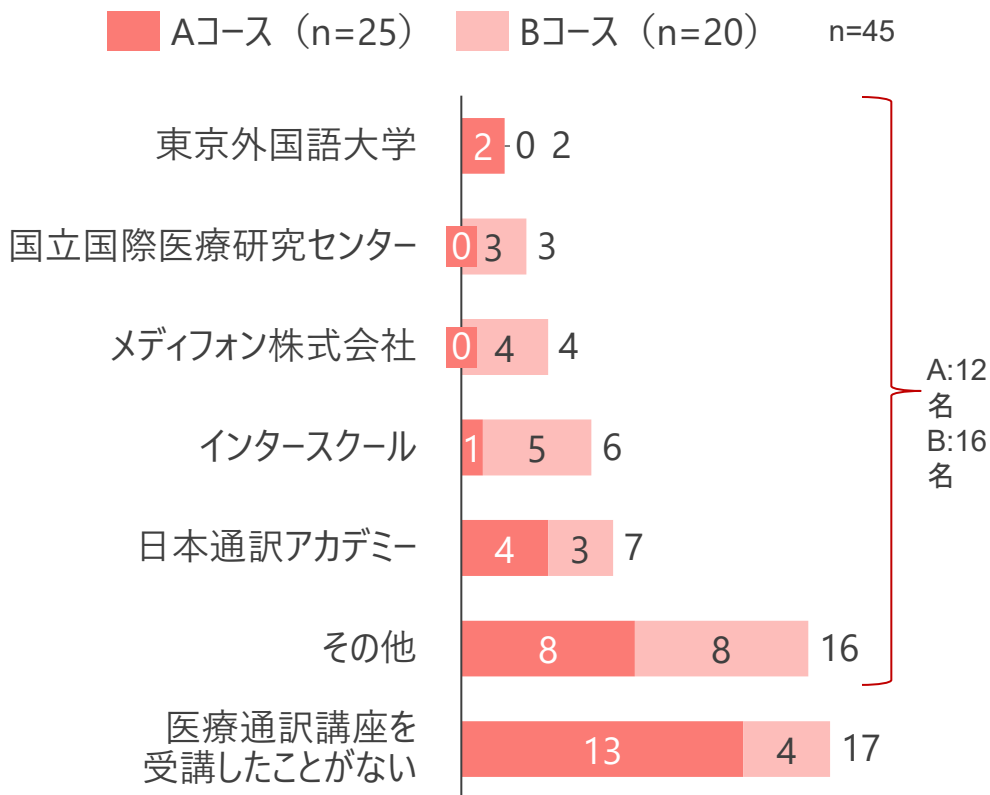
■ Aコース (n=25) ■ Bコース (n=20) n=45



開催後アンケート（2/5）

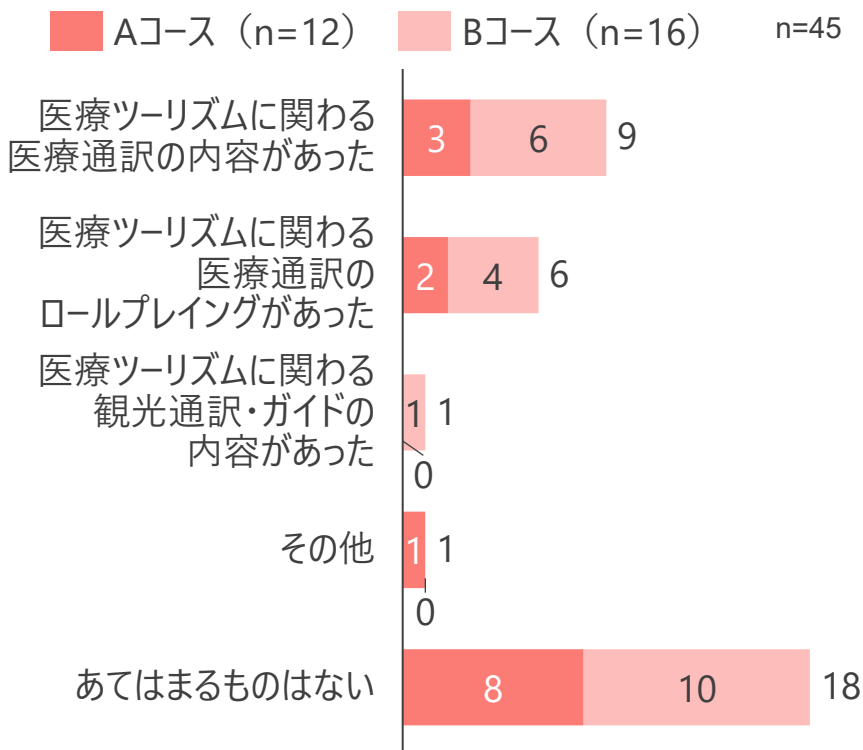
本講座受講前に、医療通訳講座の受講経験があった受講者が約6割いた。

本講座を受講するまでに医療通訳講座を受講したことがありますか（複数回答可）



その他:TAURIS、IJCEE、医療通訳養成学院(2名)、JGA(2名)
回答無:国際医療福祉大学大学院、順天堂大学、東京科学大学

受講した講座で医療ツーリズムに関わる内容がありましたか（複数回答可）

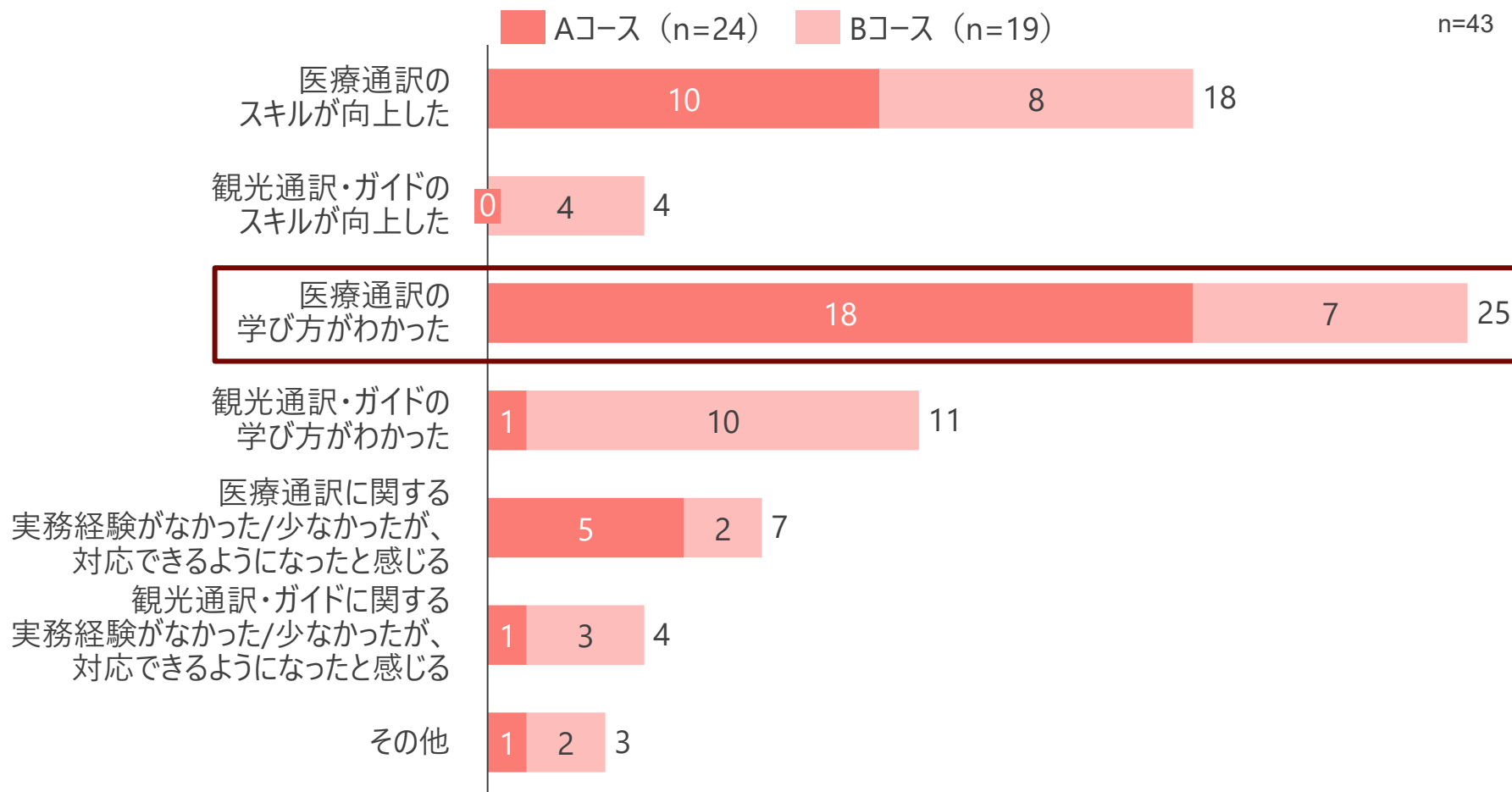


その他:講師、受講者共に全国通訳案内士の資格保有者が多かったため、講座の中で少し関連のあるテーマの話がされたことがある
回答無:医療ツーリズムに関わる観光通訳・ガイドのロールプレイングがあった

開催後アンケート（3/5）

医療通訳の学び方はわかったの回答が多かった一方で、実務対応が可能になったとの回答は少数であった。本講座プログラムでは医療ツーリズムに関する通訳の導入としては有用であるが、実務とのつながりが不足していると考えられる。

本講座の受講前と受講後の変化について教えてください。

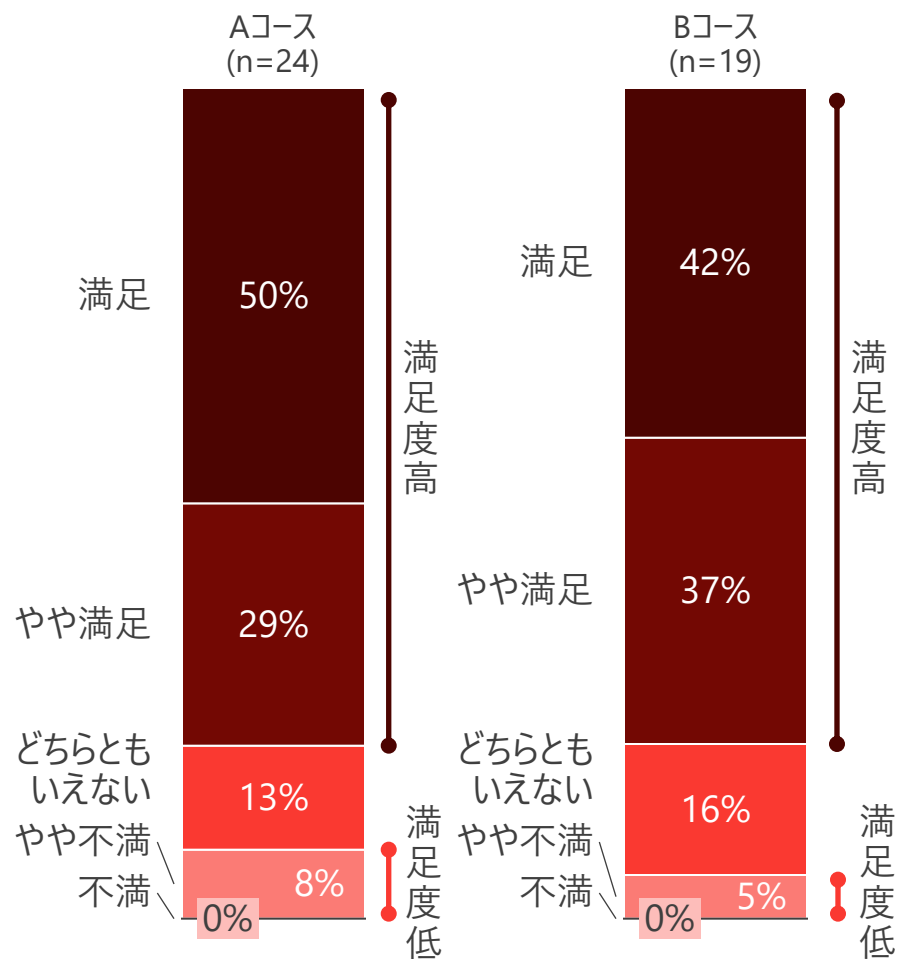


開催後アンケート（4/5）

満足度はAコース、Bコースとも高く、観光通訳・ガイドについての知識が全くなかったため、医療ツーリズムでの医療通訳と共に学べて良かったとの回答があった。一方、受講後、どのように実稼働や経験につながるのか、道筋が見えていないという声があった。

満足度

満足度で選択した理由を教えてください



【Aコース】

- 座学、ロールプレイ、実地見学とバランスが取れていた。
- コンテンツに満足していますが、職業としての医療通訳になる道筋がなく、まずはボランティアから、という現状だと、必要なスキルや知識およびその習得にかかる時間に対して報われるイメージが無い。

【Bコース】

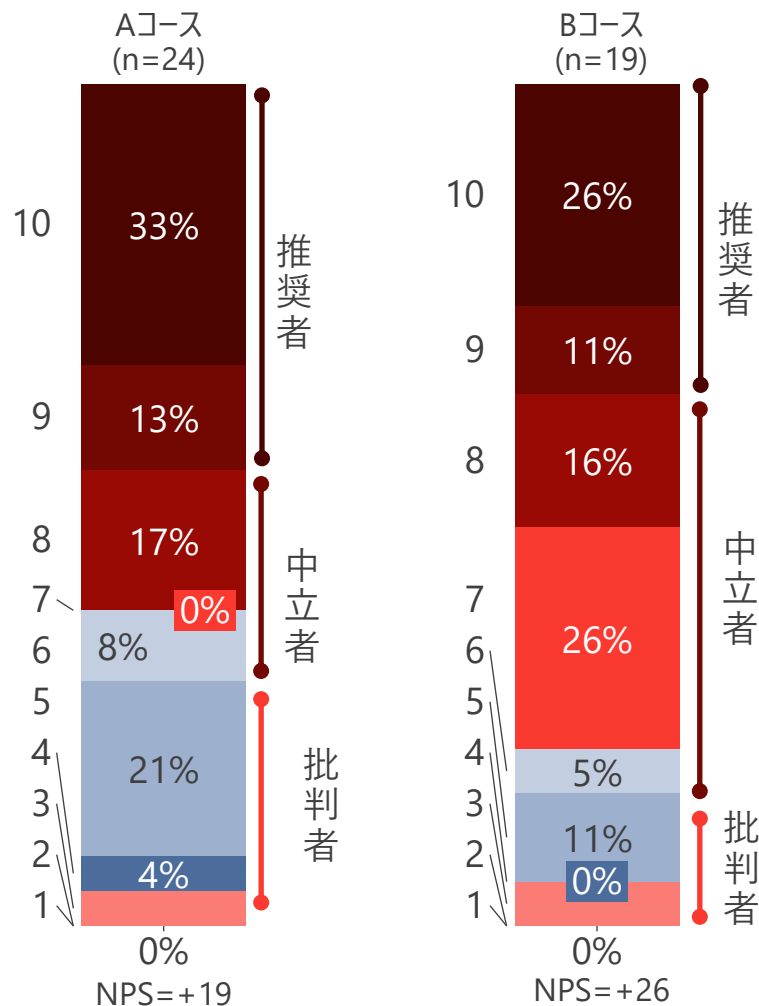
- オンライン、アーカイブ、実施時間が夜であることなど、受講しやすかったです。受講を終えた今、今後はどのように学習や経験をしていけばよいでしょうか。
- 同業者の方々と交流ができ、今後のスキルアップにもつながりそう。特にロールプレイが良かった。
- 観光通訳・ガイドについての知識が全くなかったため、医療ツーリズムでの医療通訳と共に学べて良かった。

開催後アンケート（5/5）

医療と観光それぞれの立場を知ること、連携の大切さを理解できる点は参考になったとの声があった。

医療ツーリズムに関心のある関係者や知人などに、
本講座を参加を推奨しますか

10（推奨する）～1（推奨しない）で評価ください



推奨度の理由を教えてください

【Aコース】

- 難易度が高い医療通訳を始めるための入り口として適当であると思います。
- 将来的に金銭的報酬と結びつくイメージが持てなかった為、観光ガイドとして稼働できている多忙な仲間に推奨は難しいと感じました。
- この講座を修了したあとに、どのようにこの道に進むべきかの指標を示していただければと思う。

【Bコース】

- 医療ツーリズムに関心のある方にとって、基礎から全体像を学べる講座だと思います。特に、医療と観光それぞれの立場を知ること、連携の大切さを理解できる点は参考になると感じました。
- 実務的に医療ツーリズムにつながるかと問われると？よくわからないが、現状を知るという面では進められる。

4.モデル実証事業

4.1 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院

今年度実施した取組の概要

世界水準の医療提供体制を有する亀田総合病院と、南房総の豊かな自然環境や温泉、観光資源が有機的に連携することで、「医療と観光が融合した癒しの街・鴨川」のブランドの確立を目指した。

今年度実施した取組の概要

<p>今年度事業の 申込背景</p>	<p>鴨川市は南房総の豊かな自然環境や温泉など優れた観光資源を有しながらも、インバウンドの恩恵を十分に受けられていない状況にある。全国でも稀な「医療・福祉」のまちである鴨川市の地域活性化には、日本医療技術の国際的評価向上と医療インバウンドの推進が不可欠である。亀田総合病院が中心となり、地域全体を巻き込んだ医療ツーリズムの仕組みを構築し、健診から治療、療養、観光に至るまでを鴨川市全体で支える体制の確立を目指す。</p>	
	<p>事業開始前の状況</p>	<p>具体的な取り組み</p>
<p>ニーズの把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ タイは元々親日国であるため、医療×観光との掛け合わせが市場拡大に有効である推察 ■ 現地視察の結果、鴨川に可能性があると判断 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 現地に精通した人材の採用による正確なニーズの把握（タイ人スタッフの雇用：2025年6月） ■ タイ大使館訪問によるヒアリング ■ モニターツアーの実施
<p>滞在プランの作成と ブラッシュアップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域DMOである鴨川観光プラットフォーム株式会社の評議委員として参加 ■ 具体的なツアープラン等は未作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域（地域DMO）を巻き込んだ仕組みづくり ■ ニーズ分析結果を踏まえたモデルプランの作成 ■ モニターツアー後アンケート結果の反映
<p>プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロモーション活動に関しては特段未実施の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新聞・TV局の取材対応による情報発信 ■ カモ旅・JMHCウェブサイトへの掲載（今後） ■ SNS（YouTube）を利用したPR活動 ■ ジャパンエキスポタイランドへの出展
<p>モニター実証・ 販路の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ JTB千葉支店と連携し、医療ツーリズムに関する意見交換を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 在日タイ人インフルエンサーによるモニターツアー実施 ■ 国内外のJTBグループを活用した販路の検討

事業実施スケジュール

今年度はモデルプランの確立に向け、在日および在外タイ人を対象としたモニターツアーを計2回実施し、医療サービスおよび滞在・観光プログラムに関する評価・課題の把握を行った。また、ジャパンエキスポタイランドに参加しプロモーションを行った。

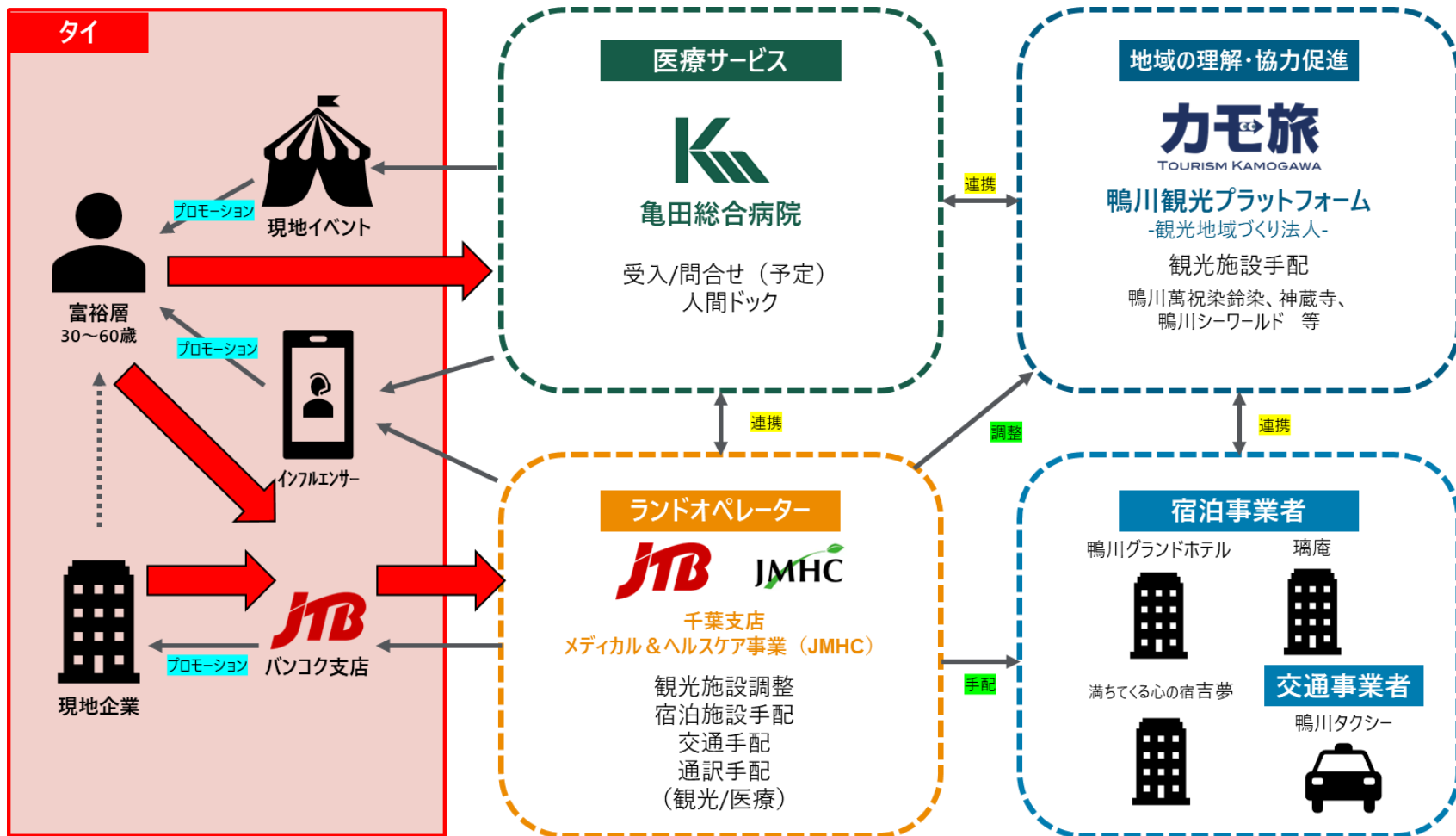
スケジュール

実施事項	取組内容	2025年			2026年		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体推進	定例会の開催 (地域関係者との連携)	★ キックオフ	定例会：毎月第2・4水曜日 分科会				★ 報告会
滞在プランの 磨き上げ	コンテンツの整理	コンテンツ整理					
	滞在プランの検証・完成		滞在プラン検証・完成				
プロモーション	ニーズ把握	ニーズ把握・ペルソナ作成		モニターツアー 全2回：12/4~7、1/5~7			
	広告資料の作成		広報資料作成 (YouTube動画作成等)				
	広報活動		取材対応		YouTube動画公開 JAPAN EXPO Thai 参加		
販路拡大	現地旅行会社への 意見交換		亀田総合病院ネットワーク JTBバンコク支店				

事業推進体制

JTBがランドオペレーターを担い、医療機関、観光事業者、医療渡航支援企業等と連携し、医療インバウンドの受入体制の構築を進めた。

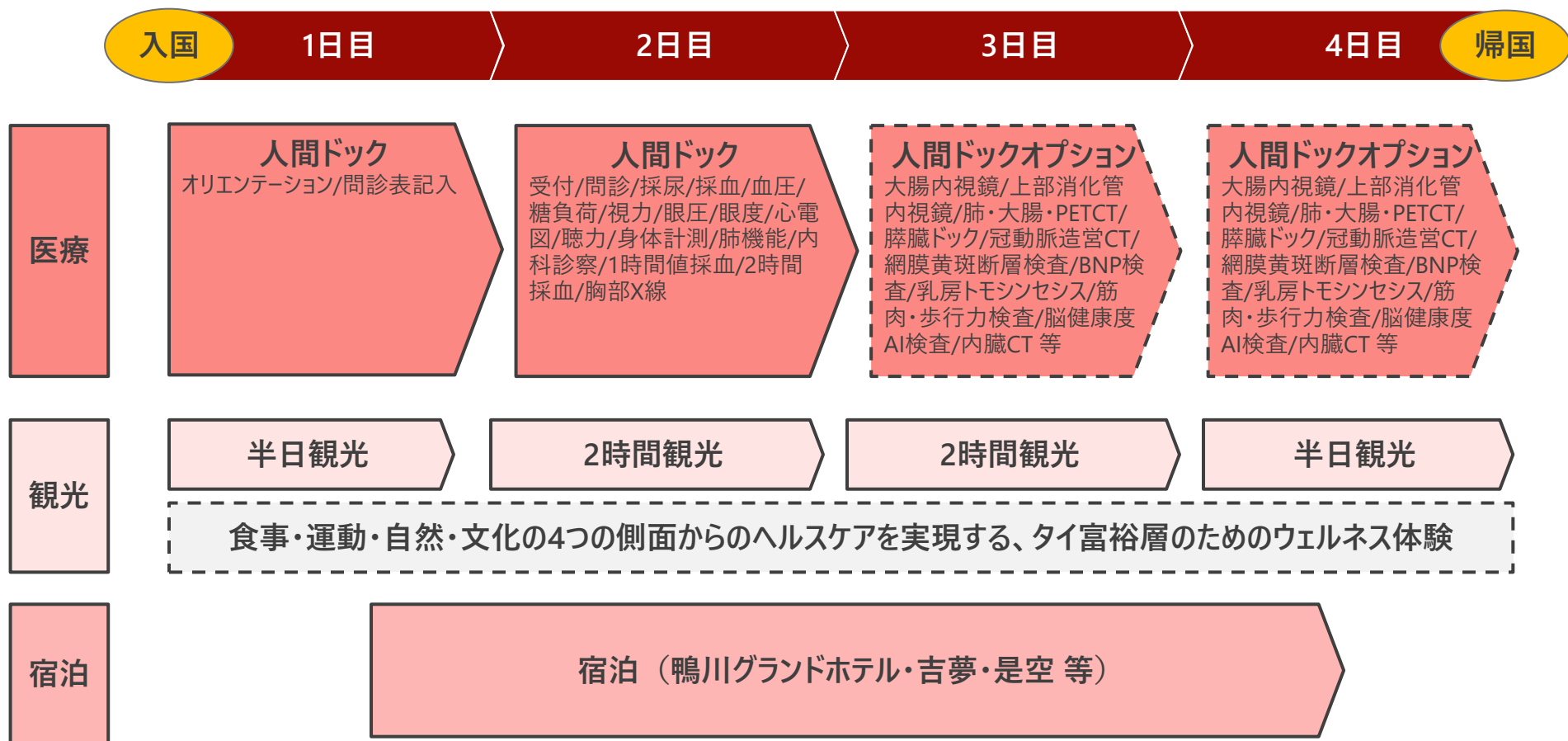
事業推進体制



プラン概要およびモデルコースの紹介

タイのターゲットに合わせて、ウェルネスをテーマに鴨川ならではのプランを鴨川観光プラットフォーム、亀田総合病院、JTBの知見を併せてプランを造成した。

プラン概要、モデルコース

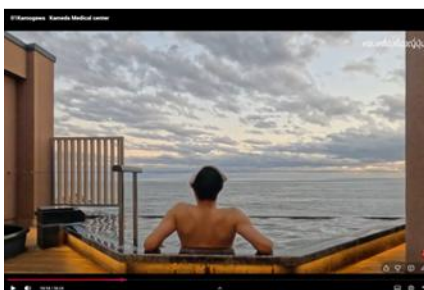
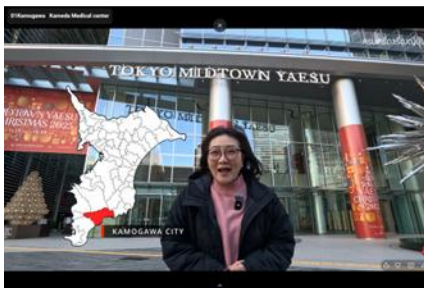


具体的な取組内容_広報活動（広告資料作成、SNSマーケティング）

日本在住のタイ人向けに発信を行うインフルエンサーをモニターツアーに招聘し、動画作成を行いYouTubeにて配信を行った。

広報活動詳細

項目	YouTube配信
公開日	2026年1月30日(金)~
展開方法	在日タイ人YouTuberによる動画配信
インフルエンサー詳細	<p><日本在住で日本の情報をタイに向けて発信> 【YouTube】 @KrobkruengJapan (リンク有) 登録者数：39.2万人 ※2026年2月20日時点 【Facebook】 KrobkruengJAPAN (リンク有) フォロワー：90万人 ※2026年2月20日時点</p>
期待する効果・目標	鴨川における医療ツーリズムの周知およびジャパンエキスポ出展の周知・目標
成果	<p>【視聴数等】 ※2026年2月20日時点 視聴回数：1.1万回 いいね：399回 コメント：89件 (具体的なコメントの紹介)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本当に癒される旅Vlogで、海も自然も綺麗で、ご飯も美味しそうで、アクティビティも面白かった。 • 千葉県鴨川市は、まさに癒しと若返りを感じられる場所です。 • 人間ドックの費用はいくらですか。 • 京都の鴨川かと思いました。



※写真は本人の承諾を得て使用しています。

具体的な取組内容_第1回モニターツアーの実施

在日タイ人をモニターとして迎え、鴨川の観光名所を中心とした医療ツーリズムのモニターツアーを実施した。あわせて、モニターはタイにおいて影響力のあるインフルエンサーでもあることから、情報発信を目的とした広告動画の作成も行った。

ツアー詳細

モニター参加者の属性	年齢	40代
	性別	男・女（夫婦）
	国籍	タイ（日本在住）
	所得層	タイ人富裕層
	過去の来日回数	6回以上 （東京、大阪、北海道、沖縄、京都他）
	海外での健診経験	あり ヨーロッパ、アジア、オセアニア等多数
実施日数（期間）	4日間（2025年12月4日～7日）	
ツアー行程	<p>【1日目】</p> <p>A 太巻き祭り寿司体験</p> <p>B 里のMUJI みんなみの里、温州みかん狩り 宿泊：房総鴨川温泉 是空</p> <p>【2日目】</p> <p>C 着付、茶道体験 ・健診＆取材 宿泊：満ちてくる心の宿 吉夢</p> <p>【3日目】</p> <p>D 鴨川シーワールド ・棚田のあかり見学 ・ネイチャーガイド（もみじ鑑賞、散策） 宿泊：鴨川グランドホテル</p> <p>【4日目】</p> <p>E 鴨川萬祝染体験 ・マザー牧場</p>	

A 訪問先：食と農の体験工房「花味結」
内 容：太巻き祭り寿司体験
説 明：切ると絵柄が浮き出る「飾り巻き寿司」が特徴の房総地方に伝わる伝統的な太巻き寿司体験



B 訪問先：里のMUJI みんなみの里
内 容：温州みかん狩り＆買い物
説 明：鴨川は房総半島の南部に位置し温暖な気候で甘くて美味しいみかん狩り体験（季節性有）



C 訪問先：神蔵寺
内 容：着付、茶道体験
説 明：一人ひとりの好みに合わせた着物の着付体験を行い、お寺の雰囲気ある茶室で、茶道体験



D 訪問先：鴨川シーワールド
内 容：入場＆昼食
説 明：普段目にする事のない海の生き物たちと出会える場所で、シャチやイルカなどのパフォーマンスは圧巻



E 訪問先：鴨川萬祝染鈴染
内 容：萬祝染体験
説 明：萬祝の発祥の地は千葉県房総半島と考えられ萬祝染製作のメインである色さしの工程の体験



具体的な取組内容_第1回モニターツアーの実施（アンケート結果）

医療サービスについては満足度が高く、鴨川の資源である自然と文化体験はとても好評であった。一方、タイ語表記の不足や観光地毎にストーリー性が分かるご案内があると良いという意見もいただいた。また、旅行者に合わせたプランの調整が必要であると感じた。

良かった点

医療	説明が分かりやすく、 <u>医師・スタッフの対応が非常に丁寧</u> 。言語が異なる場面でも安心感があった。最新設備で詳細な検査が受けられ、信頼もできる。また、院内はまるでホテルのようで非常に好印象であった。
観光	鴨川シーワールド、もみじロード、抹茶体験、海沿いの絶景の温泉など、「 <u>映えスポット</u> 」が多く、 <u>全体的に評価が高かった</u> 。 マザー牧場は景色が素晴らしく、季節によっては桜や様々な花を楽しめ、子供から高齢者まで幅広い世代が楽しめる場所であると感じた。
体験	寿司作り・茶道体験などを体験できたことは新鮮であり、日本文化を知る良い機会になった。
食事	食事は全体的に高評価。 <u>地元の食べ物もおいしくいただき</u> 、ホテルのコース料理も日本らしさがあり、盛り付けも素晴らしかった。

改善が必要であると感じた点

言語	<u>タイ語が併記されている書類や案内がなく不便</u> であった。日本語のみの資料が多かった。鴨川シーワールドのショーにおいても、英語解説があるとより良いものになると思われる。
体験	今回温州みかん狩りを行い、タイ人にとって <u>日本のフルーツは好評</u> であった。一方でフルーツの種類好みもあり、季節性の体験となり、各月でのおすすめをまとめ、発信する必要がある。
宿泊	一部のホテルの客室は、クラシックであるが新しい感じはせず、 <u>滞在型ではなく「寝るだけ」の旅行者向けホテルとの評価</u> があり、ニーズに合わせたホテル手配が必要である。
食事	夕食はビュッフェ（特にカニ）であるとより良かったとのこと意見あり。「 <u>ビュッフェはタイ人旅行者には人気</u> 」であり、旅行者への事前ヒアリングが必要である。
全体	棚田ライトアップの「地域物語」など、ストーリー性の提示があると感動度が高まる、というご意見があった。「 <u>鴨川ならではの</u> 」の要素や <u>ストーリー型の観光が弱かった</u> 印象。

具体的な取組内容_第2回モニターツアーの実施

現地タイ人をモニターとして迎え、鴨川の観光名所を中心とした医療ツーリズムのモニターツアーを実施した。

ツアー詳細

モニター参加者の属性	年齢	50代
	性別	男・女（夫婦）
	国籍	タイ
	所得層	タイ人富裕層
	過去の来日回数	2-3回 （北海道、大阪）
	海外での健診経験	なし
実施日数（期間）	3日間（2026年1月5日～7日）	
ツアー行程	<p>【1日目】</p> <p>A 鴨川萬祝染め体験 ・シーサイドベース</p> <p>B 着付、茶道体験</p> <p style="text-align: right;">宿泊：亀田クリニック</p> <p>【2日目】</p> <p>・人間ドック</p> <p>・鴨川シーワールド</p> <p style="text-align: right;">宿泊：満ちてくる心の宿 吉夢</p> <p>【3日目】</p> <p>C 遊覧船乗船 D 菜な畑ロード</p> <p>E ガラス工芸体験 ・里のMUJI</p>	

A 訪問先：鴨川萬祝染鈴染
内 容：萬祝染体験
説 明：萬祝の発祥の地は千葉県房総半島と考えられ萬祝染製作のメインである色さしの工程の体験



B 訪問先：神蔵寺
内 容：着付、茶道体験
説 明：一人ひとりの好みに合わせた着物の着付体験を行い、お寺の雰囲気ある茶室で、茶道体験



C 訪問先：鯛の浦遊覧船
内 容：遊覧船乗船
説 明：鯛の浦は、水深10～20mという比較的浅い海域に、数千匹ともいわれる天然マダイ群生の観察



D 訪問先：菜な畑ロード
内 容：菜の花畑見学
説 明：毎年冬から春にかけて開催されるイベントで広大な敷地に菜の花が一面に咲き誇る



E 訪問先：ガラス工房アルコスGallery&CAFÉ
内 容：ガラス工芸体験
説 明：プロが使用する本格的な溶解炉や道具を使ってより本格的なガラス工芸の雰囲気味わえる



具体的な取組内容_第2回モニターツアーの実施（アンケート結果）

第1回モニターツアーに引き続き、医療・観光ともに高い評価を得ており、言語面での手厚いフォロー体制によるものと考えられる。一方で、医療通訳には高度なスキルが求められることから、通訳者の確保や各訪問先での言語対応など、今後の改善課題も明らかとなった。

良かった点

医療	第1回目のモニターツアーを経て、 タイ語の問診票等を準備したことで、高い評価を得た。 国際水準の医療サービスとして満足度が高い結果となった。
観光	第1回目と同様に、鴨川シーワールドや菜の花畑がある菜畑ロード、シーサイドベースは「 映えスポット 」として評価され、 全体的にも評価が高かった。
体験	萬祝染や着付・茶道体験、ガラス工芸体験などに独自性や日本らしさを感じられると高評価であった。
自然	訪問前の鴨川の「 自然豊か 」「 海がきれい 」「 静か・リラックスできる 」というイメージが、モニターツアーで実際に訪れ裏付けされた。
通訳	通訳およびスタッフの手厚い言語サポートがあったため、観光全体の高い満足度が得られた。 今回の通訳は、多様な業務経験があり単純な通訳だけでなく、ツアーのフォローなどが一因と考えられる。

改善が必要であると感じた点

言語	各訪問地での多言語対応：通訳が同行していたが多言語対応が欲しいとの声があり、 多言語対応アプリや二次元コードによる情報提供が必要である。
医療	人間ドックの事前準備および事後フォローの重要性が改めて確認された。今回は想定範囲内で対応できたが、 今後はイレギュラーの発生を未然に防ぐための対応体制の確立 を目指す。
観光	概ね多くの施設で高評価を得られたが、 夜間アクティビティに関する提言 もあり、滞在時の満足度を上げるためにもナイトタイムコンテンツの開発が必要である。
全体	今回はモニターツアーのため、スタッフが同行し細かな調整を行っていた。今後の対応として 通訳とは別に旅程管理を行う添乗員がいた方が満足度が上がる と考えられる。 モニターツアーのため、訪問先が多くなりタイトなスケジュールとなったが、 タイ人の特徴として余裕を持ったスケジュールの方が良かった。 日本語⇄タイ語の通訳者の数が少ないため、通訳手配に苦労した。今後の体制強化のため、 通訳者を事前の確保が課題である。

具体的な取組内容_ジャパンエキスポタイランドへの参加

タイ国内およびASEAN地域最大級の「オールジャパン」イベントであるジャパンエキスポタイランドにブース出展を行い、鴨川の医療ツーリズムのプロモーションを行った。

イベント詳細

イベント名	JAPAN EXPO THAILAND 2026
実施日	2026年2月6日~8日
会場	セントラルワールド（バンコク中心部）
企画概要	日本文化全体を体験的に発信するBtoC型イベント。タイ国内およびASEAN地域最大級の「オールジャパン」イベントとしての位置づけ
来場者規模	約83万人
出展物	<ul style="list-style-type: none"> 紹介パンフレット（950枚） ①ロゴ入りクリアボトル ②扇子 ③多機能ペン ※ LINE登録で①or②プレゼント（計500個） ※ チラシと一緒に③を配布
成果	【来場者数】 1日目：295人 / 2日目：275人 3日目：282人 / 合計：852人 【LINE登録者数】 1日目：191人 / 2日目：129人 3日目：200人 / 合計：520人

ブース①



ブース②



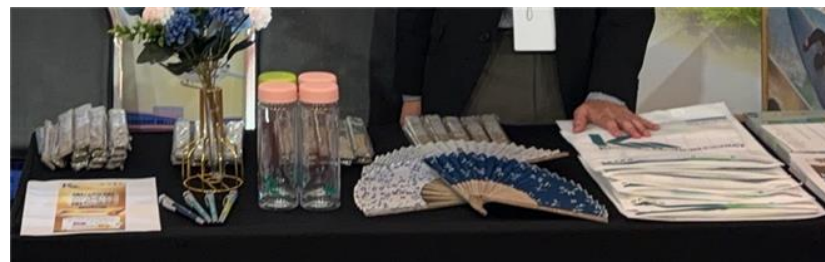
来客対応①



来客対応②



ノベルティ / チラシ



具体的な取組内容_ジャパンエキスポタイランドへの参加

鴨川はタイ人観光客に認知が低いが、ウェルネスや多様なアクティビティに関心が高い。日本の医療費は高価という認識があるものの、鴨川は東京からのアクセスが良く、その立地は優位。効果的なプロモーションで誘客を促進する必要がある。

ヒアリング結果

	お客様の声	お客様の声から得られた示唆
日本の医療に対するイメージ	<ul style="list-style-type: none">■ 日本の医療は高度だが、病気になった時には利用しにくい（言語等のハードル）	<ul style="list-style-type: none">■ タイ人にとって日本語の言語対応が課題である
医療×観光プランへの興味・関心	<ul style="list-style-type: none">■ 鴨川はタイ人観光客に広く宣伝されていないが、ウェルネスの提供において、魅力的だと感じている	<ul style="list-style-type: none">■ ウェルネスは魅力的に感じてもらっており、今後はいかに広報を進めていくかが重要になる
観光地としての魅力	<ul style="list-style-type: none">■ 鴨川は十分に宣伝されていないため、活動的なタイ人観光客にはまだあまり知られていない。一方で、市内で楽しめる多様なアクティビティには強い関心を持っている	<ul style="list-style-type: none">■ モニターツアーでも確認できたように、鴨川のアクティビティには高い魅力を感じてもらっている。実際に来訪してもらうための効果的なプロモーションが必要となる
価格	<ul style="list-style-type: none">■ 人間ドックパッケージの料金に言及する訪問者は多くなかったが、日本の医療は非常に高額だという認識が強い	<ul style="list-style-type: none">■ 高価なイメージがあるため、価格に見合う価値を感じてもらえる層にターゲットを絞る必要がある
その他	<ul style="list-style-type: none">■ 多くの訪問者が鴨川への訪問に興味を示し、東京や他の主要都市からの距離を尋ねていた。成田空港・羽田空港のどちらからもそれほど遠くないと知ると、さらに関心を高めていた	<ul style="list-style-type: none">■ 鴨川市の立地は他地域に比べて優位であるため、この強みを明確に伝えることが重要である

今年度事業の振り返り

鴨川の地域資源に対する評価は全体的に高く、細かな趣向やニーズも把握できた。これらの結果を今後のツアー造成に活かしていく。また、受入体制やプロモーションの強化については、引き続き検討を行いながら、本事業を継続的に進めていく。

取組から見えた課題と今後のアクション

	取組から見えた課題	今後のアクション
ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ■ 宿泊先の食事はバイキング形式を好み、日本の果物が好まれる ■ タイ人のゆったりとした国民性からか、タイトな日程よりも余裕を持った日程が好まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 好みに合わせて、宿泊先・訪問先の調整を行い、柔軟性を持って対応していく。また、旅程作成の時には、余裕を持ったスケジュールで、当日の急な旅程変更にも対応できるように代替案も用意していく
滞在プランの作成とブラッシュアップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利便性を考慮し、終日ハイヤー手配を行った場合に高額となった。費用を抑えるために、都度迎車を呼ぶ対応を行うためのオペレーションの検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ モニターツアーではスタッフが同行して旅程管理を行っていたが、件数が増えるに対応が困難になるため、添乗員の配置も検討していく
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鴨川はタイ人に十分に宣伝されておらず、活動的なタイ人観光客の間でもまだ認知が低い。鴨川の認知向上を図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療ツーリズムにおけるプロモーションは、翌月などすぐに大きな効果が出るものではないため、継続的に広報を行っていく
モニター実証・販路の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化的な体験などの説明に対しては各訪問先で高い評価を得られた一方、説明資料の多言語対応を求める声があり、対応が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各観光地の協力依頼はもちろんのこと、翻訳した資料・アプリなどの製作を行い、対応していく
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療通訳は専門用語が多く通常の通訳より人材が限られているうえ、日本語⇔タイ語の対応ができる通訳者も少ない。そのため、複数名の受け入れには工夫が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後、医療ツーリズムの受け入れ人数が増加することを見据え、医療通訳者の確保を進めていく必要がある

4.2 株式会社十八親和銀行・株式会社みずほ銀行

今年度実施した取組の概要

地方銀行とメガバンクの共創で地域の医療・観光の高付加価値化を図り、インバウンド誘致モデルを創出する。銀行がPMOを担い持続的連携を構築を目指した。

今年度実施した取組の概要

今年度事業の 申込背景	地方銀行とメガバンクの共創による地域の医療×観光の高付加価値化、観光インバウンド誘致の強力な呼び水となる事例づくりを目指す。銀行がPMOを担うことで、強固な産官学金連携体制構築が可能であり、持続可能性担保をする。	
	事業開始前の状況	具体的な取り組み
受入体制	<ul style="list-style-type: none">■ コンソーシアムを今年度当初に組成、プランの作成・受入に向けた準備を進める■ 長崎大学病院は2026年4月から人間ドックを開始予定であり、受入体制が未整備	<ul style="list-style-type: none">■ モニターツアーにより、プランのブラッシュアップを図る■ 長崎大学病院で他大学病院の人間ドックプラン・オペレーションと比較し、人間ドック実施に向けた体制整備の準備を実施
マーケティング	<ul style="list-style-type: none">■ 中国の保険会社が提供している、富裕層向け保険商品の付帯サービスに組み入れを想定	<ul style="list-style-type: none">■ 保険会社と交渉を行ったが、国際情勢により中断■ 需要調査と兼ねて渡航支援企業3社とのネットワーキングを実施
プロモーション	<ul style="list-style-type: none">■ プロモーション資材がなかった	<ul style="list-style-type: none">■ SNSでのプロモーションを見据えた動画作成（1～2分程度）の実施
その他	<ul style="list-style-type: none">■ コンソーシアムを組成したばかりのため、関係者間の連携強化が求められる	<ul style="list-style-type: none">■ 関係者の連携強化を目指して、地域関係者とのキックオフミーティング、意見交換会、懇親会を実施

事業実施スケジュール

今年度はモデルプランの確立に向け、中国人富裕層を対象としたモニターツアーを実施し、医療サービスおよび滞在・観光プログラムに関する評価・課題の把握を行った。また、広告資料の作成、医療機関の受入体制検討も実施した。

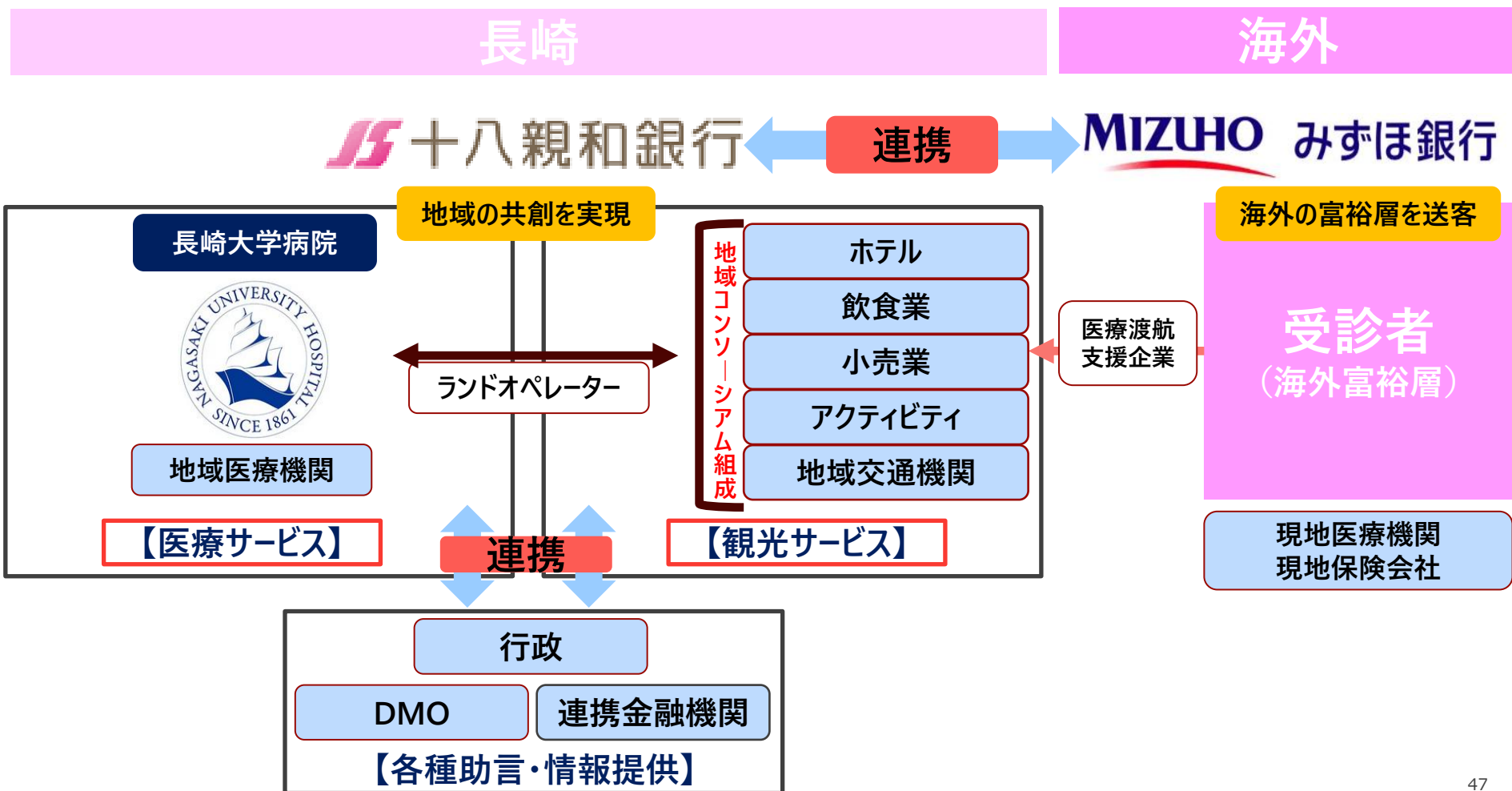
スケジュール

実施事項	取組内容	2025年			2026年		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体推進	定例会の開催 (地域関係者との連携)	★ キックオフ	定例会：毎月第2・4木曜日			★ 意見 交換会	★ 報告会
市場調査	デスクトップ調査	中国の 医療ニーズ					
	需要調査				渡航支援企業 ヒアリング調査		
プロモーション	ニーズ把握、検証		モニターツアー 11/24~28	モニターツアー結果 集計、分析			
	広告資料の作成				広報資料作成 (動画作成)		
受入体制	受入体制検討			医療機関の受入体制検討 (受入フロー検討)			

事業推進体制

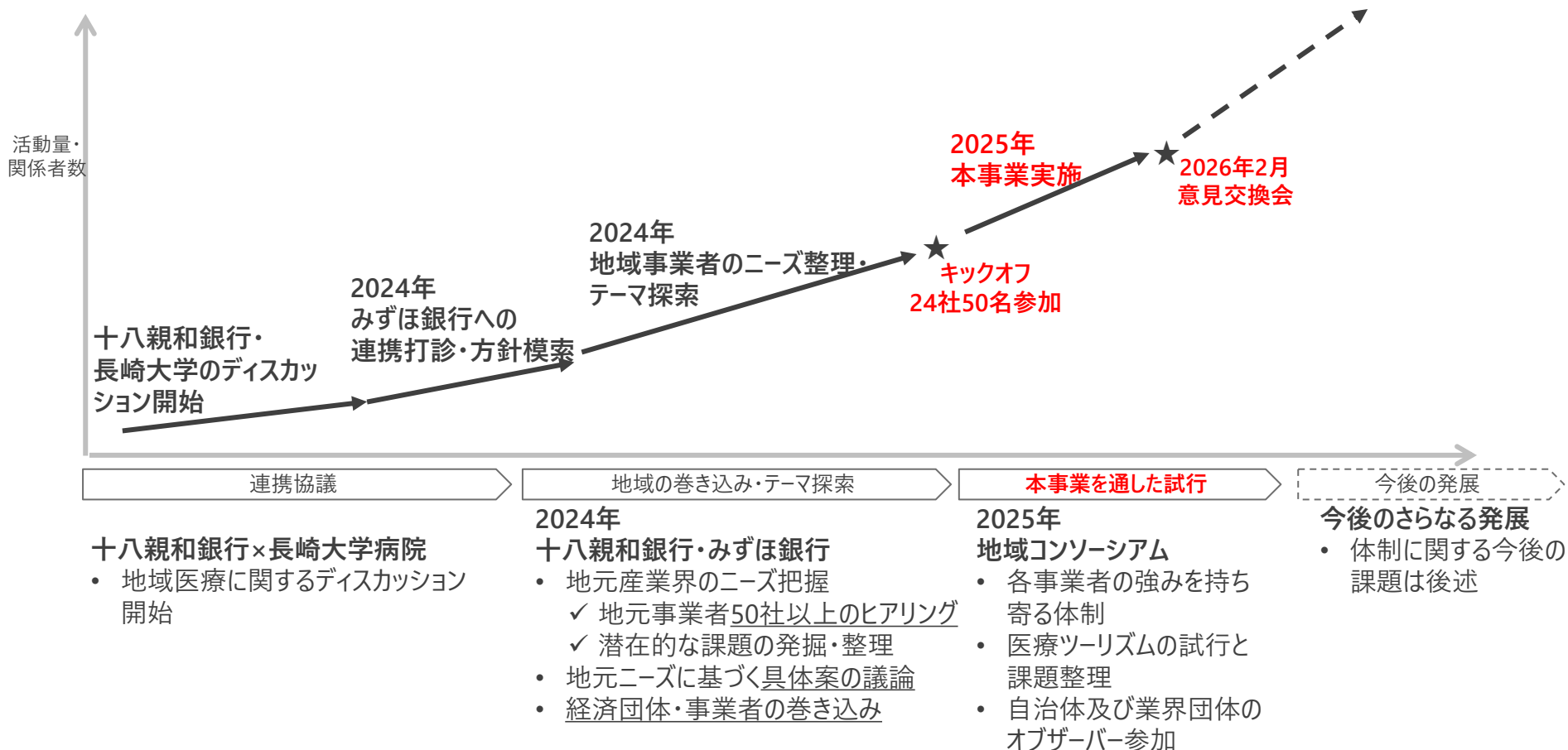
十八親和銀行とみずほ銀行がPMOを担当し、地域コンソーシアムを組成した。

事業推進体制



事業推進体制構築の経緯

従前から地域医療のディスカッションをする中で地域の医療と観光資源の活用可能性を検討してきた経緯がある。そうした経緯を踏まえ、本事業が契機となり地域コンソーシアム組成に至っている。



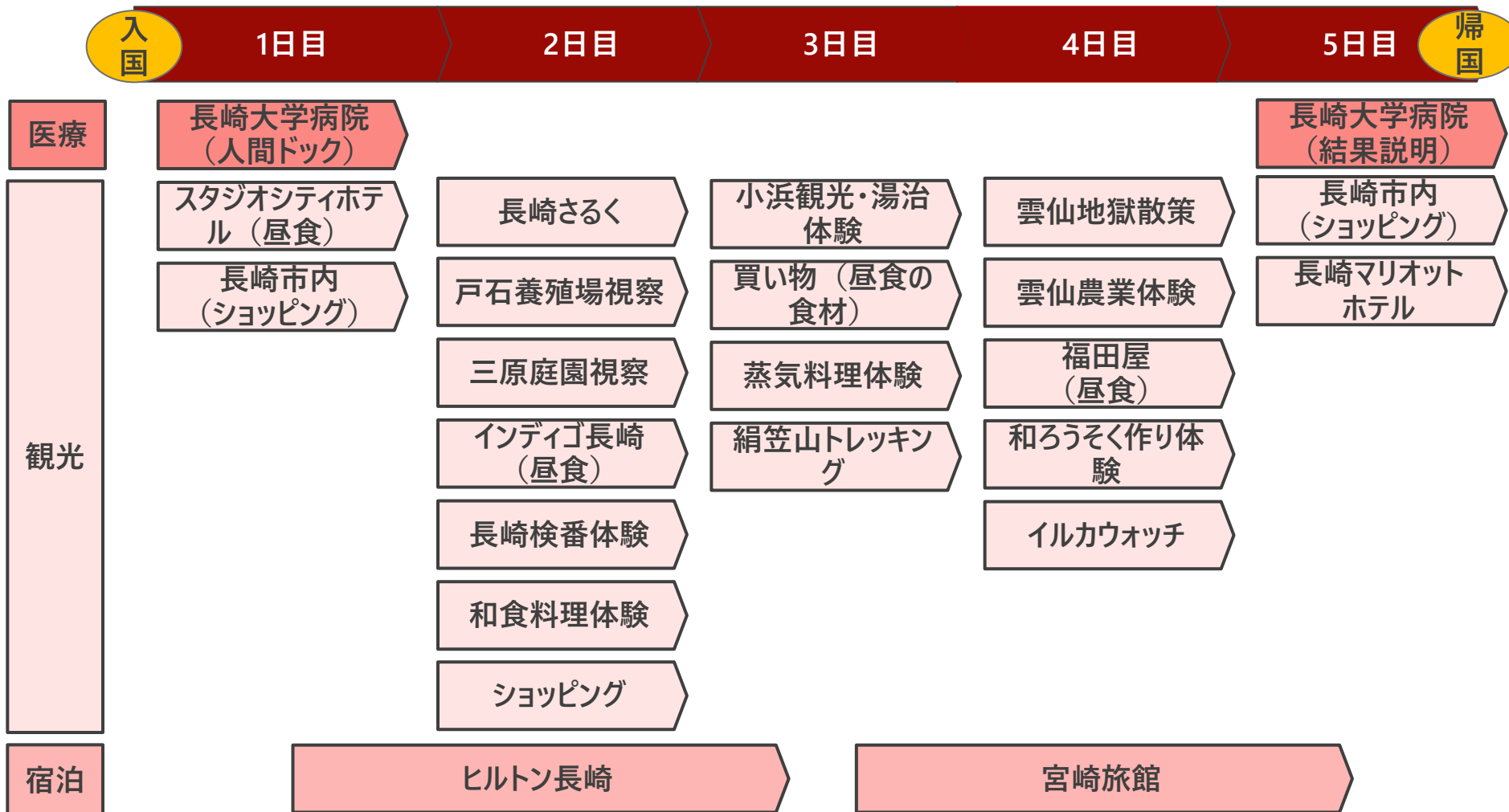
■「地域医療の維持・発展」に向けた体制構築に係るポイント・役割

- ✓ 地域金融機関：富裕層をターゲットとしたインバウンド誘致等、地元産業界の巻き込み、産官学金の座組構築
- ✓ メガバンク：地域ニーズの把握整理、構想実現に向けた体制加速化（医療コーディネーター・海外とのネットワーク等）
- ✓ 地元事業者：高付加価値の観光づくり、外需獲得に向けた各種実行

事業開始時・検討プラン概要

事業開始時の検討プランでは、4泊5日でプランを設計、初日に人間ドックを実施し、最終日に検査結果の説明、2日～4日目は長崎の観光資源を満喫するツアーとした。

プラン概要、モデルコース



モニターツアー 行程

11/24（月）～11月28日（金）の日程で中国人富裕層3名（男性2名、女性1名）を対象とした、モニターツアーを実施した。

参加者

- 参加者：3名
（男性2名、女性1名）
- 40代
- 日本への渡航歴あり
- 中国（上海在住）の
中間富裕層

行程

日程	内容	日程	内容
DAY1 11/24 (月)	長崎大学病院見学	DAY3 11/26 (水)	雲仙つむら農園体験
	スタジアムシティホテル長崎見学		本多木蠟工業所体験
	井上病院見学		寺院座禅体験
	ガーデンテラス長崎夕食		雲仙地獄散策
ヒルトン長崎宿泊	雲仙宮崎旅館宿泊		
DAY2 11/25 (火)	戸石養殖場体験	DAY4 11/27 (木)	小浜温泉病院見学
	長崎輪番本社視察		小浜温泉周辺散策
	長崎さるく体験、新地中華街散策		高岩山トレッキング
	料亭橋本（卓袱コース）		雲仙地獄地熱体験
ヒルトン長崎宿泊		雲仙宮崎旅館宿泊	
		DAY5 11/28 (金)	インタビュー、感謝状（記念品） 贈呈式、出国

モニターツアー イメージ

長崎大学病院では人間ドックの実施想定を基に、プレゼンテーションを実施した。他のコンテンツでは実際のツアーを体験した。



長崎大学病院



戸石養殖場体験（試食付）



長崎検番体験



伝統野菜農業体験



寺院座禅体験



湯宿蒸気家（源泉蒸窯料理）

モニターツアー実施後 調査結果

渡航前後で長崎に対する関心度・印象が大幅に上昇した。全体としても、高い評価を取得できた。

アンケート結果（5段階評価）

	認知度・関心度・印象		全体評価		
	ツアー前	ツアー後			
総合評価	3.2	4.9	4.5	医療	長崎大学病院 井上病院 小浜温泉病院
				4.3	
				宿泊	ヒルトン長崎 雲仙宮崎旅館
				4.5	
				食事	ガーデンテラス長崎 料亭橋本 ホテルインディゴ長崎 等
				4.5	
				体験	長崎さるく体験 長崎検番体験 戸石養殖場体験 等
4.6					
散策（ショッピング）	浜町中華街 雲仙地獄周辺 小浜温泉周辺				
3.9					
交通	観光タクシー				
5.0					

モニターツアー実施後 参加者・受入事業者の声

観光に比重を置いたツーリズムならば、都市圏と遜色の無い体験価値提供が可能とのポテンシャルを感じる一方、コミュニケーションに富んだツアーガイドの重要性を認識した。

	モニターツアー参加者	受入事業者	PMOの所感
プラン	<ul style="list-style-type: none"> 長崎ならではの歴史・文化・伝統などを感じることができ、これまでの長崎の印象が大きく変わった 旅行がメインで長崎に来て、病院で簡単な健診を受けるという旅行パッケージ商品は良いかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> 健康というテーマは非常に良く、今後の海外旅行客増加のキーとなるかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> 観光に比重を置いたツーリズムならば、都市圏と遜色の無い体験価値提供が可能というポテンシャルを感じた 中国人は商品のみならず病院も「ブランド」が重要である ストーリーのあるコンテンツは満足度が高い
接遇	<ul style="list-style-type: none"> 接遇は特段不具合はなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 対応をツアーガイドだけに頼らず、従業員も一定の多言語対応が必要と感じた（正確に伝わっていないような場面も多く感じた） 事前に従業員に対し事業の重要性や趣旨等を理解させることも必要だった 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションに富んだツアーガイドの重要性と共に最低限の言語の習得の必要性を感じた
今後の展開	<ul style="list-style-type: none"> SNS（レッド（小紅書））公式のアカウントを作って発信したほうがよい これまでは日本の大都市へ旅行することが多かったが、長崎の経験は非常に新鮮で、これからは地方の旅行も検討したい 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も受入を継続したい（全社共通意見） 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の日中関係の悪化からも、中国だけに限らず広く海外富裕層を送客できるルートの確立が、事業の継続性に不可欠と痛感をした

モニターツアー 総評

モニターツアーにおいて、長崎ならではの体験や見学が好評であり、観光からリードする集患可能性を認識している。医療においては強みを活かすプランを固め、受入体制（多言語対応等）を整備する必要がある。

良かった点

体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長崎ならではの体験や見学はとても喜ばれていた ・ 刺身やとれたて野菜の試食、体験は参加者の反応がとてもよかった
土産	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地の魅力や良さが伝わるものに関しては、買い物の手が進んでいた
言語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受入側のスタッフが事前に中国語や英語を勉強されており、コミュニケーションについては問題なかった
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 睡眠時無呼吸症候群の検査について、今後プランに盛り込むことで、魅力的なツアーになるのではないかと感じた

改善が必要であると感じた点

接遇	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレや喫煙休憩できる場所が少ないと感じたため、移動ルートや体験先で気をつけながら進めていく必要があると感じた
通訳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通訳者が体験に夢中になってしまい、訳していない状況を多々見かけた
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事は高級なものが多かったが、B級グルメや長崎名物を口にする機会があっても良いのではないかと感じた
散策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬局やドン・キホーテでの買い物をとても満喫されていたが、地元ならではの店の案内をコースに入れた方が良かったと感じた
医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療に関するプランが固まっていないため、導線やメニューを早期に固め、中国との違いや大学病院ならではの魅力を伝える必要がある。 ・ 館内放送が日本語のみなど、多言語対応の整備が必要

需要調査（渡航支援企業ヒアリング調査）

モニターツアーを踏まえて、長崎大学病院における医療サービス（人間ドック）の検討をする中で、今後の受入に向けた要点を確認するため、渡航支援企業3社に対する需要調査（ヒアリング調査）を実施した。

ヒアリング実施概要

目的	渡航支援事業者様の視点から、海外患者のニーズや市場性、実務上の課題等について意見を伺い、需要調査を行い長崎大学病院の体制整備の参考とする
対象事業者	渡航支援企業：3社 <ul style="list-style-type: none"> 株式会社Yolidoli 株式会社セントルシアヘルスケアジャパン NexaHealth Solutions株式会社
実施方法	Web
参加者	<ul style="list-style-type: none"> 長崎大学病院 十八親和銀行 みずほ銀行 フロンティア・マネジメント株式会社

ヒアリング項目

<ul style="list-style-type: none"> 渡航支援企業の基本情報 - 渡航支援企業の基本情報（医療ツーリズムに関する対応範囲） - 取り扱い実績
<ul style="list-style-type: none"> 市場理解 - 中国人富裕層で最近増加・減少している医療ニーズの分野、医療機関選定で重視する要素 - 地方×観光との組み合わせ滞在ニーズの有無 - 医療滞在期間の目安 - 同伴者（家族等）の有無・人数の傾向 - 医療ツーリズムを実施する中でのトラブル事例の有無 - 医療ツーリズム（検査、健診、人間ドック）事業の検討開始から受入までの期間と、重要なポイント
<ul style="list-style-type: none"> 現状プランの評価 - 医療・観光でそれぞれ強み・魅力とを感じる点はどこか - 医療・観光でそれぞれ弱み・改善が必要だと感じる点はどこか
<ul style="list-style-type: none"> 現状プランの集患可能性 - 現状のプラン、価格でどの程度集患が可能と考えるか

需要調査（渡航支援企業ヒアリング調査）

受入フローにおいては、ソフト面での訴求を目指して、医療職による受診者へ手厚いフォローを行う体制、また導線確保や多言語対応を今後検討する。

ヒアリング結果

市場理解

- 中国人富裕層では、がん検診（予防医療）・治療、アンチエイジング・幹細胞治療のニーズが強い
- **中国は最新の医療機器の導入が進んでいるものの、ソフト面（検査精度、待遇等）では日本に劣後**しており、日本での人間ドックを受けた、中国人富裕層の満足度は高い

受入体制

- 中国人富裕層の特性から、**日本人患者と分けて導線確保をするべき**
- **院内掲示、説明文書、検査結果の翻訳、医療通訳の多言語対応**が求められる
- 検査当日の柔軟な対応、検査当日の一次アセスメント、帰国後の検査結果説明・フォローアップができるとよい

プラン

- 人間ドックで1泊2日フルコース：25万円の場合、都心の医療機関と比較して価格の優位性がある
- 地方のため、訪日経験ありの中国人富裕層へのアプローチが想定されるが、どのようにマーケティングするかは要検討である

今後の対応（案）

- 中国人富裕層の特徴を踏まえた接遇研修の実施
- **医療職による受診者へのフォローを行う受入フローを検討**

- 日本人患者への影響を避けるため導線整理を行う
- **多言語化する対象を明確にし、翻訳対応もしくは医療通訳の確保**に努める
- 中国人富裕層の特徴及び他国内の医療機関との差別化を念頭に置いた、受入フローの検討

- 価格の提示方法は、受診者や渡航支援企業の理解が得られやすい説明方法を検討
- （国内在住の中国人富裕層へのアプローチを含む）マーケティング戦略を検討

受入フローの検討

長崎大学病院では、医療ツーリズムでの人間ドック受入を見据えて、受入フローの検討を行った。

受入フロー（イメージ）

受入フロー全体

- 受入れフローの全体像（問い合わせ～帰国後フォローまで）
 - 医療ツーリズムでの受入ではプロセスごとに重要なポイントがあり、医療機関と渡航医療支援企業が十分に連携して、医療提供を行う必要があります。

受入フロー全体

	医療機関(a)	渡航医療支援企業(b)	外国人患者(c)
Step1 集患	渡航医療支援企業等にプラン・受入条件を共有	外国人患者へ日本の渡航医療を周知、広報	日本の渡航医療を認知、検討
Step2 問い合わせ	外国人患者の一次情報を受取、必要情報を渡航医療支援企業へ依頼	医療機関へ問い合わせ、外国人患者の一次情報・診療情報等を伝達	医療機関へ渡航医療支援企業等を介して問い合わせ
Step3 受入検討・調整	受入可否判断	診療情報等を医療機関へ伝達	既往症等を渡航医療支援企業へ共有
Step4 渡航調整	検査等の検討	医療滞在ビザの手配 医療費の事前入金	概算費用を渡航医療支援企業へ支払い
Step5 滞在支援	来院前に必要事項を渡航支援企業を通じて説明	送迎、医療通訳・翻訳の手配、生活・観光面のフォロー	検査の事前留意事項に配慮しながら滞在
Step6 受診支援	検査の実施	検査の説明同席	ホテルからの通院等対応
Step7 フォロー	検査結果の送付、検査説明等フォロー	診断書の翻訳、帰国後フォロー、問い合わせ対応	(必要に応じて) 日本・海外で継続受診

院内の多言語化

- 多言語化（翻訳）の対象文書
 - ①医療ツーリズムで受入予定の人間ドックコースの基本プランでの説明に使用する書類②人間ドックの導線上の院内掲示③検査結果のフォーマット
- 翻訳を外部委託を行う場合の留意点：以下の条件を満たす翻訳会社へ依頼を行う
 - 事業者及び業務管理者、翻訳担当者は直近1年で当院と同等程度の医療機関（大学病院が望ましい）から人間ドック・検査に関する翻訳の受注実績が3件以上あること
 - ネイティブチェックの実施が可能であること
 - 納品後、納品物に疑義が生じた場合は修正対応のうえ再納品に対応すること
 - プライバシーマーク等、情報セキュリティに関する認証を取得していることが望ましい
- 医療通訳の手配
 - ①院内の医療職で中国話者②外部委託による医療通訳の確保
- 医療通訳を外部委託を行う場合の留意点：以下の条件を満たす翻訳会社へ依頼を行う
 - 事業者及び業務管理者、医療通訳担当者は直近1年で当院と同等程度の医療機関（大学病院が望ましい）から人間ドック・検査に関する医療通訳の受注実績が3件以上あること
 - プライバシーマーク等、情報セキュリティに関する認証を取得していることが望ましい

医療ツーリズム事業の実装に向けたロードマップ

実装に向けて、送客チャネルとして、当初想定していた保険会社以外に、渡航支援企業からの流入を模索する。次年度は、「福岡・佐賀・佐世保連携のツアー造成を目標」とし事業を展開する。

4月以降の実装に向けた動き

マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> • 当初想定の通り中国の保険会社からの送客 • 複数の渡航支援業者と接触し、他国からの誘客の模索 • 首都圏を中心とした国内富裕層の送客を行っていく予定 					
	受入	<ul style="list-style-type: none"> • 実際の旅行商品を機動的に造成・販売する体制を構築する 				
	送客	<ul style="list-style-type: none"> • 「保険のオプションとしての送客」について議論し、送客制構築を目指す • 同時進行で、複数の医療渡航支援事業者と接触し、中国以外の外国人送客ルートを探求・開拓する 				
受入体制	医療	<table border="1"> <tr> <td>長崎大学病院</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> • 「健診業務」を4月開始に向け構築中(大学職員対象 + インバウンド) </td> </tr> <tr> <td>井上病院</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> • 増収施策として、インバウンド医療検討に積極的。無呼吸症候群診断による治療の提案あり </td> </tr> </table>	長崎大学病院	<ul style="list-style-type: none"> • 「健診業務」を4月開始に向け構築中(大学職員対象 + インバウンド) 	井上病院	<ul style="list-style-type: none"> • 増収施策として、インバウンド医療検討に積極的。無呼吸症候群診断による治療の提案あり
	長崎大学病院	<ul style="list-style-type: none"> • 「健診業務」を4月開始に向け構築中(大学職員対象 + インバウンド) 				
井上病院	<ul style="list-style-type: none"> • 増収施策として、インバウンド医療検討に積極的。無呼吸症候群診断による治療の提案あり 					

来年度に向けた動き(県北エリア・県またぎ)

<ul style="list-style-type: none"> • 長崎は国際線が少なく、圧倒的な空の玄関口である福岡との連携は必須 • 加えてインバウンド富裕層のニーズ「複数エリアに滞在したい」や、国の「広域リージョン連携(九州はひとつ、越境 = 県またぎ)」を重視した地域活性化目線への対応として、次年度は、「福岡・佐賀・佐世保連携のツアー造成を目標」とし、厚労省制度の活用等を検討していく方針

3月：他県の銀行合同イベント

分科会「観光」で議論

他県の銀行・事業者巻き込み

福岡銀行経由で福岡連携

九州としての
インバウンド
富裕層
呼び込みへ

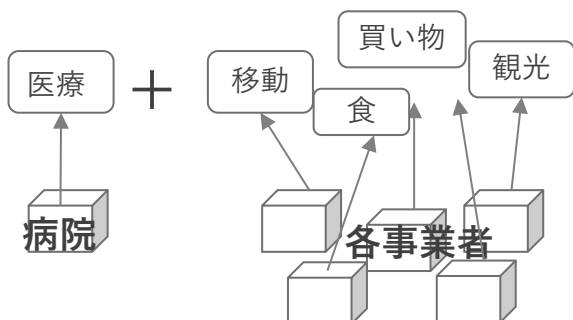
事業推進体制に関する今後の検討課題

前述の経緯から、本事業ではコンソーシアム各社が提供できるものを起点としてコンテンツの設計・提供を行った。
この経験をさらに有効に活かすべく、「あるべき医療ツーリズム」「提供したい価値」など、あるべき姿・ビジョンを地域コンソーシアムで定め、それに基づいて、**一貫したコンテンツ提供（ストーリーある医療観光）**を検討していきたい。

本事業の位置づけ

■プロダクトアウト型の提供

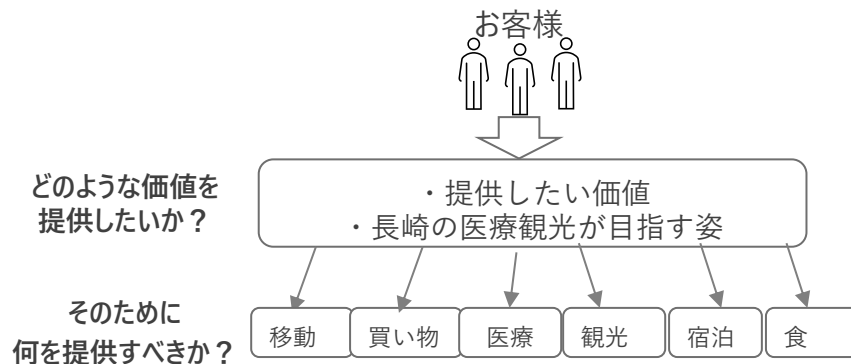
- 地域の各企業・団体が集い、各々が提供できるコンテンツを提供（移動・宿泊地・各種体験・ショッピング・トレッキング...等）
- 結果として、プロダクトアウト型のコンテンツ提供になった側面が強い



今後、検討余地がある対応

■マーケットイン型の提供

- ターゲットの明確化とコンソーシアム内での情報共有
- ツーリズム全体を通して、どのような価値を提供したいのか？
- インバウンド富裕層のニーズを踏まえた上で、①顧客の期待を超え、②長崎ならではの体験の提供が重要



■上記に向けた論点

- 医療ツーリズムが目指すビジョン・提供したい価値の策定
- 上記ビジョン等に即した「提供すべきコンテンツ」の検討
- 持続的な実行体制の構築
- 価値提供の障壁となる規制の検討（官民連携の対応）等

4.3 一般財団法人 倉敷成人病センター

過年度事業課題の振り返りと今年度の方針設定 (1/2)

前年度の実証事業では、PMOの確立・院内受入体制と受入フローの整備・地域独自の滞在プランの作成・継続的な展示会出展及びセミナー開催・プロモーションや市場調査の継続などが今後の課題としてあげられた。

前年度の課題と解決策の振り返り

		前年度の課題	解決策	今年度の方針
連携体制の構築	国内医療インバウンド推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の医療観光をリードするPMOの存在がまだ確立されていない ■ 医療と観光を結ぶ組織である医療渡航支援企業は<u>マーケット調査をきちんと実施する必要がある</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>医療と観光の知見を有すPMO</u>を確立する ■ 医療渡航支援企業は、<u>詳細なマーケット調査及びデータ分析</u>を行い、<u>市場ニーズに迅速に対応する必要がある</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 集患方法を見直し、医療渡航支援企業との業務分担を明確化する
	治療・手術と親和性があるプランの作成	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>観光を多く取り入れるより、患者への負担を配慮し、医療の妨げにならない形式で、地域での滞在をより快適にする滞在プランの構築が求められる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>地域の独自の食事やホテルでの滞在を工夫し、より患者に負担が少ない滞在プランを作成する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 滞在期間中のニーズに合わせて周遊できる小旅行プランを作成し、パンフレット等で見える化を図る
滞在プラン作成・受入フローの確立	医療と観光を結ぶ受入フローの確立	<ul style="list-style-type: none"> ■ <u>中国スタッフの充実、院内説明書の多言語化</u>等、今後富裕層のインバウンド受け入れに伴う<u>院内体制の整備</u>が必要である ■ 在日中国人ではなく、<u>医療渡航で受診する患者で受入フローを実証する必要がある</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スムーズな受入に必要な<u>院内体制を段階的に整備する</u> ■ 実際の患者を連れて検証を行い、<u>受入フローを確認する</u>。実証の課題点に基づき、受入フローを修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 院内外のスタッフに対し、中国語対応研修を実施し、受入体制の強化を図る ■ 院内の受入フローについても、見直しを実施し、最適化を図る

過年度事業課題の振り返りと今年度の方針設定 (2/2)

前年度の実証事業では、PMOの確立・院内受入体制と受入フローの整備・地域独自の滞在プランの作成・継続的な展示会出展及びセミナー開催・プロモーションや市場調査の継続などが今後の課題としてあげられた。

前年度の課題と解決策の振り返り

		前年度の課題	解決策	今年度の方針
販路構築 海外プロ モーション	北京 展示会	<ul style="list-style-type: none"> 北京展示会の<u>継続的なフォロアップが不足</u>し、交換した医療渡航支援企業の連絡先を生かし切れていない 	<ul style="list-style-type: none"> 中国医療観光の展示会の<u>継続的な出展</u>を行い、販路を拡大 <u>医療渡航支援企業を見極め、連携可能な企業と関係を築く</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は出展計画なし（実証事業としての出展計画がないため、単独での出展は見送る方針）
	上海 セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットに遡及できるような、<u>効果的なセミナーの開催</u>が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> <u>セミナーを定期的</u>に実施し、倉敷地域の医療と観光を組合せた滞在の認知度を上げる <u>アンケート調査の結果を踏まえ、必要な医療及び観光の情報を提供する</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度好評であったため、今年度も引き続き実施する計画 前年度の結果を踏まえた内容に修正し、患者にとって必要な情報を提供する
	PR動画	<ul style="list-style-type: none"> 医療と観光のそれぞれのパートを紹介するだけで、<u>受診者が気になる受入れフローや渡航手続きについて言及していない</u> PR動画の公開による<u>定性・定量的分析</u>が実施されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 北京展示会や上海セミナーで<u>調査した受診者の行動やニーズを反映し、医療渡航専用の動画を作成</u>する SNSでPR動画を公開し、<u>再生数やコメントを踏まえ修正</u>する 	<ul style="list-style-type: none"> 医療渡航専用の動画を作成し、病院HPやSNS等で公開 受診フローや具体的なFAQ、個別の質問に対応できる医療渡航専用LPを作成する
中国婦人科疾患の追加市場調査	中国婦人科疾患の市場調査	<ul style="list-style-type: none"> 日本への医療渡航の費用を負担できる<u>富裕層への調査が実施されていない</u> 国内外の<u>競争相手の情報を十分に調査</u>しきれていない 	<ul style="list-style-type: none"> <u>富裕層向けのアンケート調査及びヒアリング調査の設計・調査・分析</u>を実施する 中国の知名度が高い婦人疾患を治療できる医療機関や、日本国内の医療機関を<u>十分に調査し、SWOT分析</u>を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 中国で知名度が高い複数の婦人科治療施設と意見交換、現地視察を行い、分析を行う

今年度実施した取組の概要

倉敷成人病センターのロボット支援手術の実績と、倉敷地域の観光資源を組み合わせた「医療中心型の医療ツーリズムプラン」を策定し、国内における医療ツーリズム受入モデルとなるプランの確立を目指す。

今年度実施した取組の概要

<p>今年度事業の 申込背景</p>	<p>当院は婦人科ロボット支援下手術で国内外に高い知名度があり、海外からの受診者受入実績も有する。しかし、これまでは手術・入院対応にとどまり、宿泊手配や観光情報提供などの受入体制が十分に整っていなかった。一方、倉敷地域は歴史・文化・自然・食といった豊富な観光資源を有し、医療ツーリズムの受入に適した環境が整っていることから、地域一体で受入体制を整備する必要があると判断した。</p>	
	<p>事業開始前の状況</p>	<p>具体的な取り組み</p>
<p>受入体制整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ オペレーションフローの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上海医療機関に術前検査協力の依頼 ■ 院内外スタッフへの中国語対応研修の実施
<p>広報戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ロボット手術紹介のパンフレット、海外向けPR動画は前年度に作成済み ■ 前年度の課題から、SNSマーケティングについて強化を必要があると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光パンフレットや医療渡航専用ホームページの作成 ■ SNSを利用したマーケティング活動
<p>現地 プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前年度実証事業において、北京医療機関の訪問と、在上海日本総領事館でのセミナーを実施 ■ 渡航支援業者とのコミュニケーション機会は得られたが、医療機関や患者個人からの連絡はない状態 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上海医療機関へ訪問し、相互理解を深めるためのディスカッションを実施 ■ 前年度に引き続き、在上海日本国総領事館にて、市民公開セミナーを開催

事業実施スケジュール

今年度は前年度の課題を踏まえ、広報戦略および現地プロモーション活動を中心に事業を推進した。

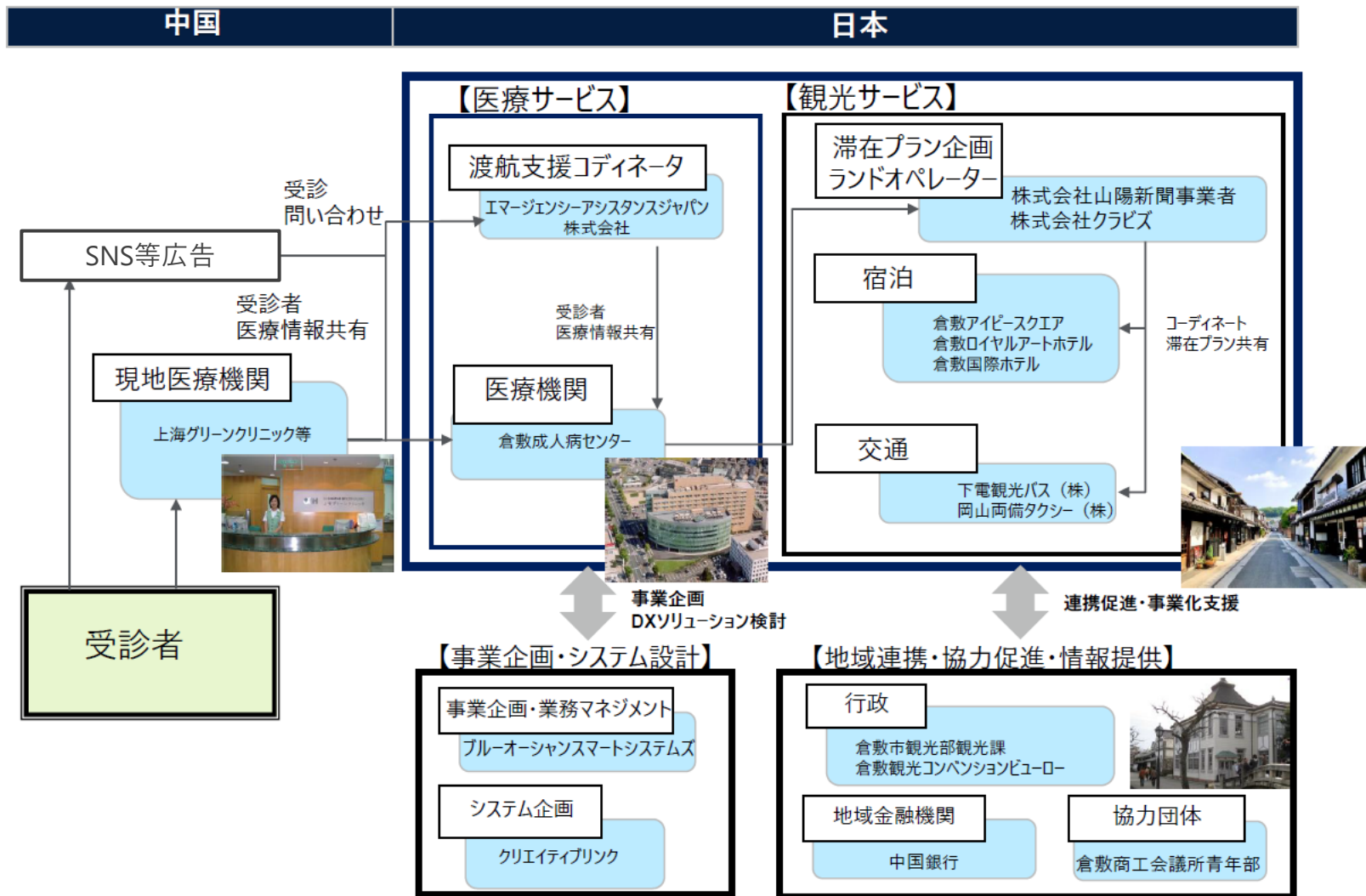
スケジュール

実施事項	取組内容	2025年			2026年		
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体推進	定例会の開催	★キックオフ	定例会：毎月第2・4金曜日				★報告会
受入体制整備	サービス検討・関連事業者との調整	滞在プランのブラッシュアップ					
	スタッフ教育		中国語対応研修				
広報戦略	広告資料の作成		医療渡航専用HP・観光パンフレットの作成				
	SNS広報	ニーズ調査	業者選定	SNSへ記事の投稿（月4件程度）			
現地プロモーション	現地医療機関との関係強化		★上海渡航	Web会議等で意見交換		★上海渡航	
	現地セミナー開催			セミナー準備		★セミナー開催	

事業推進体制

倉敷成人病センターが中心となり、観光事業者、医療渡航支援企業等と連携し、医療インバウンドの受入体制を構築した。

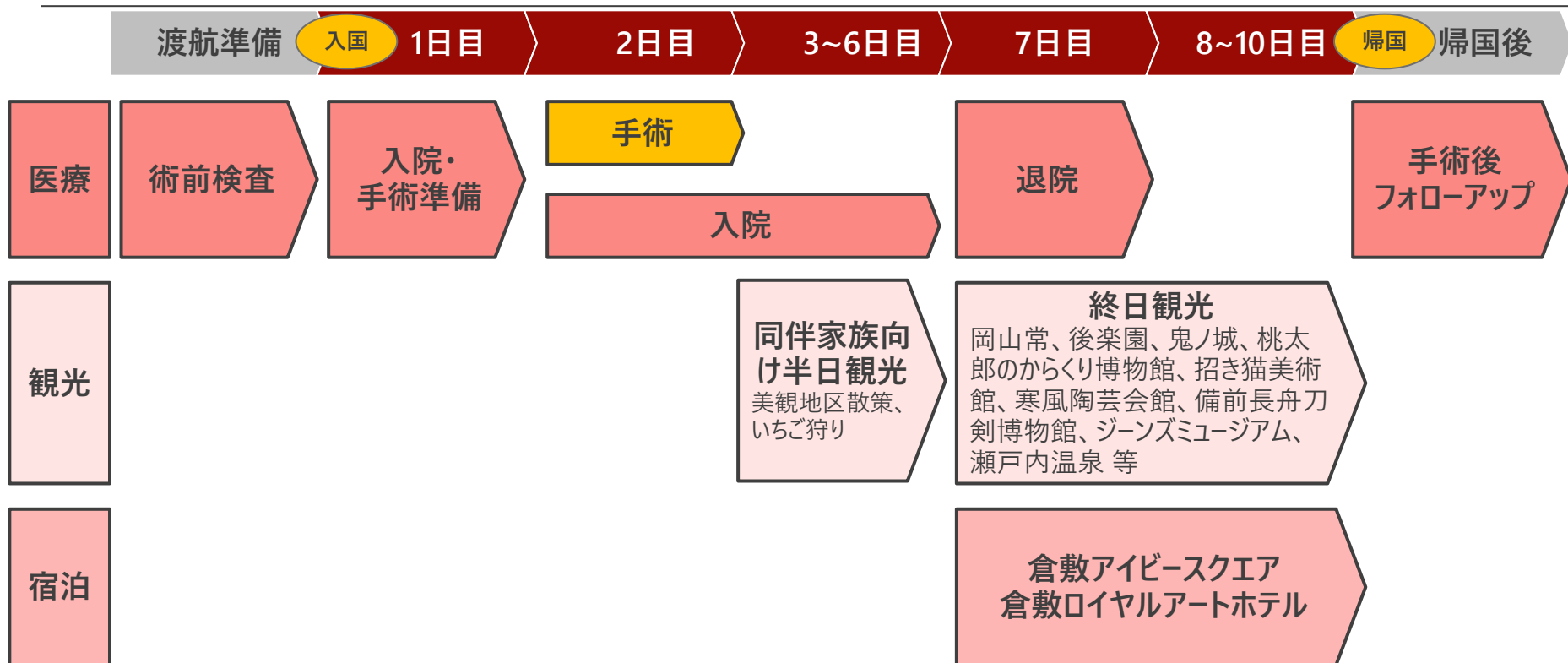
事業推進体制



プラン概要およびモデルコースの紹介

受診者の手術後に同行者（家族）と倉敷地域を中心に観光できる、8~10日間の滞在プランを策定した。

プラン概要、モデルコース



具体的な取組内容_広報戦略（SNSマーケティング）

Wechatに倉敷成人病センター公式アカウントを開設し、2025年12月～2026年3月にかけて計画的に月4回投稿を実施。患者様との直接的なコミュニケーション機会を創出した。

SNSマーケティング活動詳細

取組内容	Wechat（倉敷成人病センター公式アカウント）へ紹介記事の掲載
公開日	2025年12月～2026年3月末日
展開方法	月4回投稿を2025年12月～2026年3月まで実施
期待する効果・目標	对患者様個人向けの内容を投稿し、Wechatを通じて患者様からの問い合わせを狙う
成果	<p>総投稿回数：9回 閲覧数：117回 いいね：47件 シェア：14件 好き：36件 コメント・問い合わせ：0件</p>

Wechatに投稿した内容



設立机构: 一般財団法人 倉敷医療中心

理事長: 安藤 正明

院长: 梅川 康弘

所在地: 〒710-8522 日本冈山县仓敷市 白乐町 250

开设日期: 1971 年

病床数: 269 床



专业的妇科腹腔镜手术团队

由安藤正明医师领衔的妇科腹腔镜手术团队，其手术量位居日本顶尖水平。团队处理的高难度手术病例众多，并在世界权威学会上连续十年荣获学会大奖，深受业内高度评价。凭借精湛的技术实力，为每一位患者提供最适宜的治疗方案，让您能够安心接受手术。

※ 成果は2026年2月15日時点

具体的な取組内容_広報活動（ロボット手術紹介ホームページ、観光パンフレット）

ロボット手術紹介のホームページや観光パンフレットを作成し、病院ホームページにリンクを記載し、病院および倉敷地域の紹介を行った。

ロボット手術紹介ホームページ

取組内容	ロボット手術紹介ホームページの作成
公開日	2026年1月30日
展開方法	病院ホームページにリンクを記載
成果	閲覧数：38回

観光パンフレット

取組内容	観光パンフレットの作成
公開日	2026年1月30日
展開方法	公開セミナーや医療機関訪問時に紙媒体で配布 病院ホームページにリンクを記載
成果	配布枚数：0枚 ※公開セミナーでの配布を検討していたが、日中関係悪化の影響から、配布自粛要請あり



お腹に傷をつくらない術式で、短期入院が可能に



子宮筋腫、子宮頸癌、卵巣のう腫など女性特有の良性疾患に対して、お腹に傷をつくらない手術を実施しています。腫からカメラや操作器具を挿入することで、お腹を切らず患者さんの痛みや負担を大きく軽減します。

MERIT メリット

- ・お腹に残らない
- ・入院期間が短い
- ・出血量、痛みが少ない
- ・早期に社会復帰できる



具体的な取組内容_中国医療機関への訪問

2025年11月に復旦大学附属産婦人科医院と上海アメリカンサイノ病院に訪問し、施設見学や双方プレゼンを実施。2026年3月には上海嘉会国際病院へ訪問し、現地医療機関との関係強化を図った。

上海渡航記録

第1回目 渡航期間		2025年11月25日~29日		第2回目 渡航期間		2026年3月1日~4日	
訪問記録	施設名	復旦大学附属産婦人科医院		訪問記録	施設名	上海嘉会国際病院	
	訪問日	2025年11月27日			訪問日	2026年3月3日	
	施設概要	1884年設立の上海市の820床の国立三級甲種病院。臨床・医技科室は30科室を設置している。産婦人科学科は教育部及び上海市の重点学科であり、婦人科と産科は国家臨床重点専門科室に指定されている			施設概要	2017年設立の500床の私立三級病院 産婦人科、小児科、腫瘍科に強み。国際総合病院として、中国語、英語、日本語の診療が可能で、諸外国の医療機関との診療連携を行っている	
	実施内容	施設見学、手術見学 婦人科教授3名、准教授1名と意見交換会			実施内容	施設見学 婦人科医師、国際医療部部長と意見交換	
訪問記録	施設名	上海アメリカンサイノ病院		現地医療機関との交流			
	訪問日	2025年11月28日					
	施設概要	2003年設立の120床の私立病院。産婦人科、小児科を主に運営。ライフサイクル全体、幅広い医療・保健サービスを網羅する女性健康管理を特徴とする医療・保健サービスシステムへと徐々に発展してきた					
	実施内容	施設見学 婦人科主任医師、国際医療部長と意見交換					

具体的な取組内容_中国医療機関とのweb会議

2025年12月上海嘉会国際病院、2026年1月に浙江大学医学院附属産婦人科医院および復旦大学附属産婦人科医院とWeb会議を実施した。

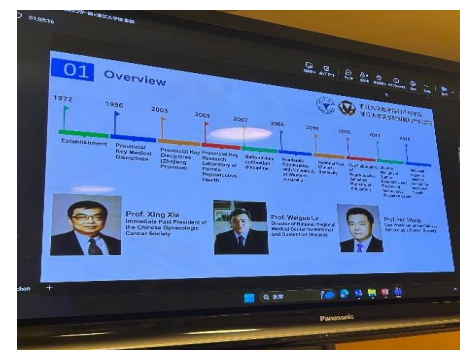
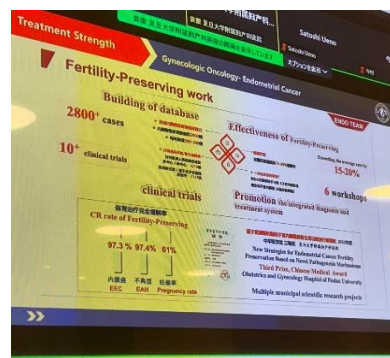
Web会議記録

会議記録	施設名	上海嘉会国際病院
	開催日	2025年12月24日
	施設概要	2017年設立の500床の私立三級病院 産婦人科、小児科、腫瘍科に強み。国際総合病院として、中国語、英語、日本語の診療が可能で、諸外国の医療機関との診療連携を行っている
実施内容	今後の連携可能の方向性を確かめた 3月3日訪問の予定を確定した	
会議記録	施設名	浙江大学医学院附属産婦人科医院
	開催日	2026年1月8日
	施設概要	1951年設立の浙江省杭州市の750床の国立三級甲種病院 浙江省の産婦人科医療、教育、研究、家族計画、婦人保健の指導および中核的なセンター
実施内容	婦人科教授3名 双方の施設紹介および婦人科疾患における手術技術について意見交換を行った	

会議記録	施設名	復旦大学附属産婦人科医院
	開催日	2026年1月21日
	施設概要	1884年設立の上海市の820床の国立三級甲種病院 臨床・医技科室は30科室を設置している。産婦人科学科は教育部及び上海市の重点学科であり、婦人科と産科は国家臨床重点専門科室に指定されている
実施内容	参加者：婦人科教授2名 双方の施設紹介および婦人科疾患における手術技術について意見交換を行った	

復旦大学附属産婦人科医院

浙江大学医学部附属
産婦人科医院



具体的な取組内容_中国医療機関との交流記録（1/2）

復旦大学病院は非常に友好的で、患者紹介にも前向きであり、今後日中関係が落ち着けば、技術指導や医師派遣による学術交流を希望されている。

中国医療機関との交流記録

No	医療機関	内容
1	復旦大学附属産婦人科医院 <ul style="list-style-type: none"> 1884年設立の820床の国立三級甲種病院 臨床・医技科室は30科室を設置している 産婦人科学科は教育部及び上海市の重点学科であり、婦人科と産科は国家臨床重点専門科室に指定されている 	<ul style="list-style-type: none"> Web面談、施設・手術見学、相互理解を深めるための双方プレゼンを実施 大学病院にはダヴィンチXIが1台のみであり、<u>技術や実績において倉敷成人病センターの方が長けていると判断</u> <u>技術指導や医師派遣による研修を希望されたため、社会情勢が落ち着き次第、来日され研修を実施する予定</u> 患者紹介に対しても前向きであった
2	浙江大学医学院附属産婦人科医院 <ul style="list-style-type: none"> 1951年設立の750床の国立三級甲種病院 浙江省の産婦人科医療、教育、研究、家族計画、婦人保健の指導および中核的なセンター 	<ul style="list-style-type: none"> Web面談を実施し、双方の施設紹介および婦人科疾患における手術技術について意見交換を行った 浙江大学医学院産婦人科医院は、中国国内において産婦人科診療がトップクラスで日本の医療機関とは桁違いな手術実績を有している <u>2022年からロボット手術を開始し、既に倉敷成人病センターと並ぶロボット手術経験を積んでいた。遠隔ロボット手術も実施していることが分かった</u>

具体的な取組内容_中国医療機関との交流記録（2/2）

復旦大学病院は非常に友好的で、患者紹介にも前向きであり、今後日中関係が落ち着けば、技術指導や医師派遣による学術交流を希望されている。

中国医療機関との交流記録

No	医療機関	内容
3	上海アメリカンサイノ病院 <ul style="list-style-type: none">2003年開設の120床の私立病院産婦人科、小児科を主に運営ライフサイクル全体、幅広い医療・保健サービスを網羅する女性健康管理を特徴とする医療・保健サービスシステムへと徐々に発展してきた	<ul style="list-style-type: none">婦人科へ訪問（面談者：婦人科主任医師、国際医療部部長）ロボット手術は未導入であり、認知も低かった<u>MRIを有しておらず、術前検査の協力病院としては難しいが、術後フォローは依頼可能</u>
4	上海嘉会国際病院 <ul style="list-style-type: none">2017年開設の500床の私立三級病院産婦人科、小児科、腫瘍科に強み国際総合病院として、中国語、英語、日本語の診療が可能で、諸外国の医療機関との診療連携を行っている	<ul style="list-style-type: none">国際医療部担当者とweb面談やメールで継続的に意見交換3月3日に訪問し、意見交換や現地視察などを計画<u>MRI・CTなど診断機器が完備されており、術前検査・術後フォローに適性あり</u>

具体的な取組内容_在上海日本国総領事館にてセミナー開催

3月2日に在上海日本国総領事館にてセミナーを開催。80~100人程度の参加を想定。ロボット手術の紹介や倉敷地域の魅力を伝え、参加者に向けて最新医療に関する知見の共有と、日中間の医療交流の促進を目指す。

セミナー詳細

セミナー名	シリーズ「体のトリセツ」第46回【婦人節特別版】ここまで進んだ日本の婦人科医療
開催日時	2026年3月2日
開催場所	在上海日本国総領事館
目的	現地の一般生活者を対象として、婦人科疾患の啓蒙、当院医師及び当院の医療技術や最先端の治療内容を紹介。 (医療渡航の方法や支援内容、観光情報については日中関係を鑑みて大使館からの要請で内容から削除した)
募集方法	開催日の2週間から領事館公式Wechatにて告知
参加費用	無料
参加人数	80~100人程度を想定 (過去実績：最多で160人)
プログラム	岡山の最先端医療 子宮疾患（女性健康の潜在的な脅威） 傷を作らない手術法、先端医療低侵襲手術
登壇者	倉敷成人病センター 王 嬌

広報写真

【妇女节特辑】
日本的妇科医疗水平有多高?
— 系列讲座“身体的使用说明”第46期 —
【婦人節特別版】
ここまで進んだ日本の婦人科医療

演讲 1 子宫疾病 女性健康的潜在威胁
(子宫疾患 女性健康の潜在的な脅威)

演讲 2 达芬奇机器人SP 实现腹部无痕手术
(傷を作らない手術法 先端医療低侵襲手術)

★ 关注官方公众账号，专享限定纪念好礼 ★

2026年3月2日（周一）
14:00~17:00

费用：免费
会场：日本国驻上海总领事馆
地址：上海市方山路8号

一般財団法人 倉敷医療中心
Kawasaki Medical Center

ISGE
DMEP
TAMITA
信金中央会庫

前年度のセミナーの様子



今年度事業の振り返り

従来の主流である医療コーディネーターを介さない集患方法に取り組んだことで、広報戦略の重要性を強く認識した。今後は、ターゲット層への訴求効果を高めるとともに、現地医療機関への積極的なアプローチを継続的に実施し、医療インバウンドの獲得に努めていきたい。

取組から見えた課題と今後のアクション

	取組から見えた課題	今後のアクション
受入体制整備	<ul style="list-style-type: none">■ 日中関係の悪化でPoCが実施できなかった■ 院内受講者の中国語レベルにばらつきがあり、一律の研修では習熟度に差が生じた	<ul style="list-style-type: none">■ 上海の協力医療機関・渡航支援企業・病院との間で、患者の渡航・治療・フォローに関する連携体制を確認し、プロセスの円滑化を図る■ 定期的なフォローアップ研修を行い、継続的なスキル定着を図る
広報戦略	<ul style="list-style-type: none">■ 情報発信は行ったものの、実施期間が短く、成果を十分に定量化できなかった■ ターゲット層にリーチできているかを確認するための手段が確立していない	<ul style="list-style-type: none">■ ターゲット層に訴求するコンテンツを設計し、継続的に情報発信を行う。また、拡散を促進するための仕組みを構築する■ 適切なKPIを設定し、広報活動の効果を定期的に評価する体制を構築する
現地プロモーション	<ul style="list-style-type: none">■ 日中関係悪化に伴い複数のセミナーが中止となった■ 中国医療機関の経営事情で、患者の紹介が見込めない状況■ 関係維持のために、継続的な情報提供と交流が必要■ 市民公開セミナー後のフォロー体制の構築が必要	<ul style="list-style-type: none">■ 市民向けSNS広報戦略を強化する■ 学術交流を継続的に実施し、医療機関・専門家間の関係性を深めることで、紹介のハードルを下げる■ 他都市で市民向け公開セミナーを開催し、参加者の受講後フォロー体制を整備する
その他	<ul style="list-style-type: none">■ 中国国産ロボットを利用した手術情報が入手できない■ 中国医師の労働意欲が高く、都市部の医療技術の進歩が速い	<ul style="list-style-type: none">■ 現地での詳細なマーケティング調査を実施し、中国国内で低侵襲手術が提供されていない地域を特定する■ 中国だけではなく、他国への展開も進めていく

5.成果報告会

公募概要

各事業の実施報告の他、今年度モデル実証事業地域と過年度実証地域（継続取り組み有）でのパネルディスカッションを実施した。



令和7年度
地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れ推進のための調査・実証事業

成果報告会

厚生労働省は、観光庁と連携して日本の優れた医療と地域の観光資源を組み合わせた滞在プランの提供等による海外からの外国人受入れを目指す地域の取組を支援しており、本年度の事業成果を広く共有することを通じて、医療機関、観光事業者、地方公共団体による更なる連携や、訪日外国人受入れに係る医療環境の整備等の促進に寄与するため、令和7年度成果報告会を開催いたします。

開催日時・会場

2026年3月4日（水） 会場
14:00～17:00（13:30開場）
会場（上限100名）・WEB（上限500名）のハイブリッド開催
※会場・webとも先着順となります

TKPガーデンシティPREMIUM東京駅日本橋ホール6C
住所：東京都中央区日本橋3-11-1 HSBCビルディング
アクセス：東京メトロ日本橋駅 B1 徒歩4分、JR線 東京駅八重洲地下街23番出口 徒歩3分、都営浅草線 日本橋駅 D3 徒歩4分、JR線 東京駅 東京駅八重洲中央口 徒歩7分
URL：https://www.kashikaigishitsu.net/facilities/gcp-tokyo-nihombashi/access/

参加対象者

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入れに実際に取り組んでいる、又は取組を検討している等、本事業に関心のある医療機関、観光事業者、自治体などの担当者

スケジュール・登壇者

14:00-14:15	セミナー・交流会	フロンティア・マネジメント株式会社
14:15-14:30	人材育成事業	フロンティア・マネジメント株式会社
14:30-15:30	モデル実証事業	① 医療法人鉄蕉会亀田総合病院
		② 株式会社十八親和銀行・株式会社みずほ銀行
		③ 一般財団法人倉敷成人病センター病院
15:30-16:30	パネルディスカッション・質疑応答	今年度実証地域：医療法人鉄蕉会亀田総合病院、株式会社十八親和銀行・株式会社みずほ銀行、倉敷成人病センター 過年度実証地域：株式会社JTB横浜支店、シミックホールディングス株式会社、医療法人タビック沖繩リハビリテーション病院
16:30-17:00	交流会	登壇者・会場参加者

▶ 詳細は次のページ参照

お申込み先

申込み締め切り
2026年3月3日（火）17:00
https://event.event-planner.net/event/bundlesite/byrjew84

上記のリンクよりお申込みフォームにアクセスしてください。
※複数人で視聴希望の場合も、お一人ずつ申込みフォームにご記入ください
※参加上限があります。また、申込状況によって、会場参加希望の場合でも、web参加となる場合があります。あらかじめご了承ください。



問い合わせ先

フロンティア・マネジメント株式会社
（医療・観光 外国人受入事業事務局）
Healthcare_Inbound@frontier-mgmt.co.jp
（平日 9:30-17:30） ☎ 090-3914-1005（柳田）
☎ 080-3588-2602（大戸）

プログラム

①セミナー・交流会：フロンティア・マネジメント株式会社

- ✓ 台湾・韓国で医療ツーリズムを先進的に取り組んでいる医療機関や医療関係団体、国内の有識者を招いて、医療ツーリズムのマーケティングをテーマにして講演・パネルディスカッションを実施しました。開催結果を報告します。

②人材育成研修：フロンティア・マネジメント株式会社

- ✓ 観光から医療まで一貫して通訳できる人材育成モデルの構築に向けた実証事業として、①観光通訳経験者②医療通訳経験者向けに研修プログラムを実施しました。開催結果を報告します。

③モデル実証事業：今年度実証地域

- ✓ 今年度公募で採択された3地域の取組成果を報告します。

①医療法人鉄蕉会亀田総合病院：
「KAMOGAWA Medical & Cultural Wellness Resort」
対象国：タイ



②株式会社十八親和銀行・株式会社みずほ銀行：
「長崎雲仙満喫ウェルネスツーリズム」
対象国：中国



③一般財団法人倉敷成人病センター：
「最先端のロボット支援手術を提供する婦人科の
インバウンド医療拠点形成」 対象国：中国



④パネルディスカッション：今年度実証地域・過年度実証地域

- ✓ 今年度実証地域と過年度実証地域（株式会社JTB横浜支店、シミックホールディングス株式会社、医療法人タビック沖繩リハビリテーション病院）によるパネルディスカッションを実施します。参加者からの質疑応答も実施します。

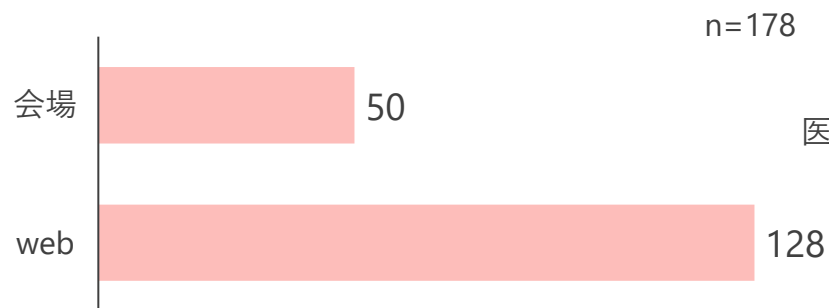
⑤交流会：登壇者・会場参加者

- ✓ 会場参加の方は、報告会終了後に登壇者や参加者と意見交換ができるよう、ネットワーキングの時間を設けております。

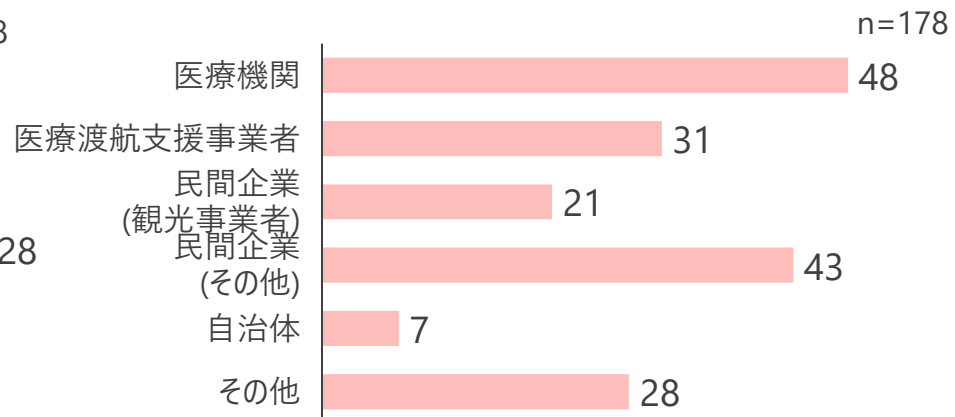
申し込み結果（1/2）

178名（会場参加50名、web参加128名）の申込があった。

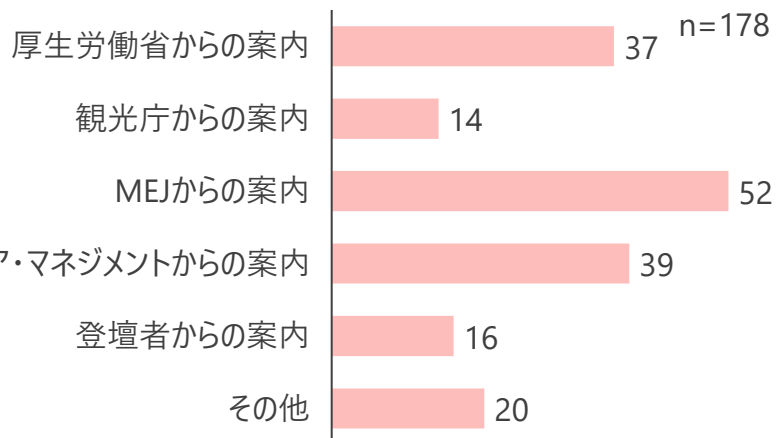
参加方法を教えてください



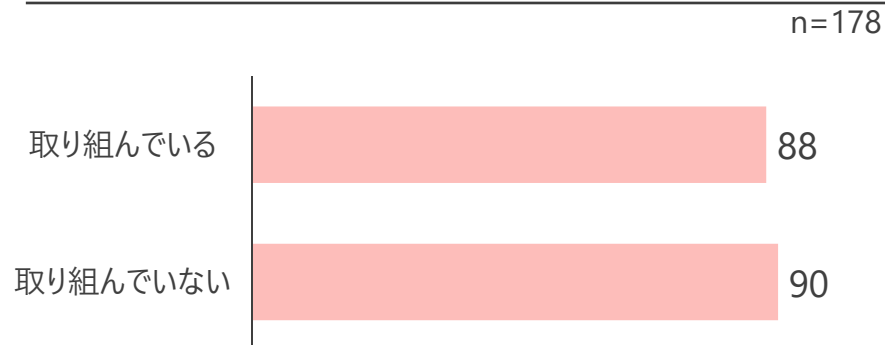
所属団体の業種を教えてください



認知経路を教えてください



取り組み状況を教えてください



申し込み結果 (2/2)

会場参加は東京都、千葉県、神奈川県、福島県、愛知県が上位、web参加は東京都、長崎県、千葉県、愛知県、沖縄県が上位となった。

都道府県別申し込み結果

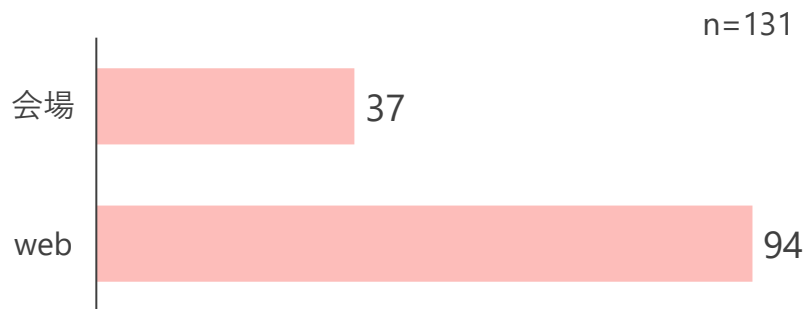
都道府県	会場	web	都道府県	会場	web	都道府県	会場	web	都道府県	会場	web
北海道	0	2	神奈川県	3	5	大阪府	0	5	福岡県	0	1
青森県	0	0	新潟県	0	0	兵庫県	0	3	佐賀県	0	0
岩手県	0	1	富山県	0	0	奈良県	0	1	長崎県	1	11
宮城県	0	0	石川県	0	2	和歌山県	0	0	熊本県	0	0
秋田県	0	0	福井県	0	0	鳥取県	0	0	大分県	0	0
山形県	0	0	山梨県	0	0	島根県	0	2	宮崎県	0	0
福島県	2	5	長野県	0	3	岡山県	1	2	鹿児島県	1	0
茨城県	0	0	岐阜県	0	1	広島県	0	1	沖縄県	0	7
栃木県	0	1	静岡県	0	0	山口県	0	0			
群馬県	0	0	愛知県	2	8	徳島県	0	0	小計	50	128
埼玉県	1	0	三重県	0	0	香川県	0	1	合計	178	
千葉県	5	10	滋賀県	0	0	愛媛県	0	0			
東京都	34	56	京都府	0	0	高知県	0	0			

※赤字:各参加方法上位5都道府県

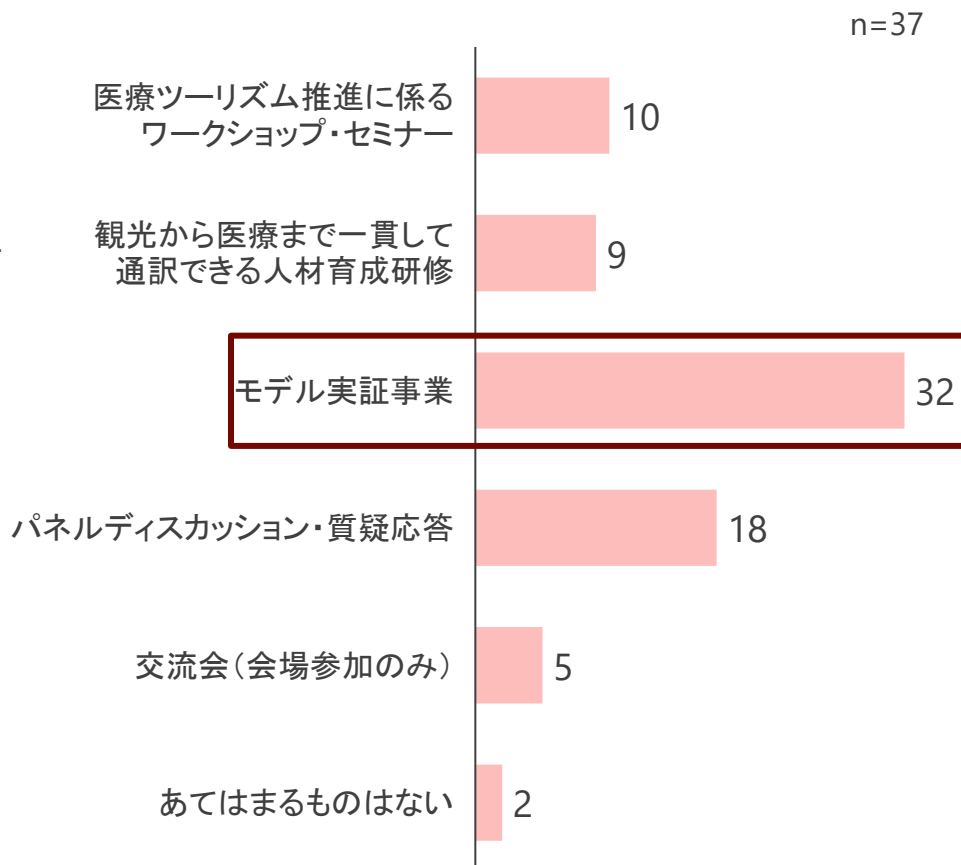
開催後アンケート（1/3）

131名（会場参加37名、web参加94名）の参加がありました。参考になった内容として、モデル実証事業が最多となった。

参加方法を教えてください



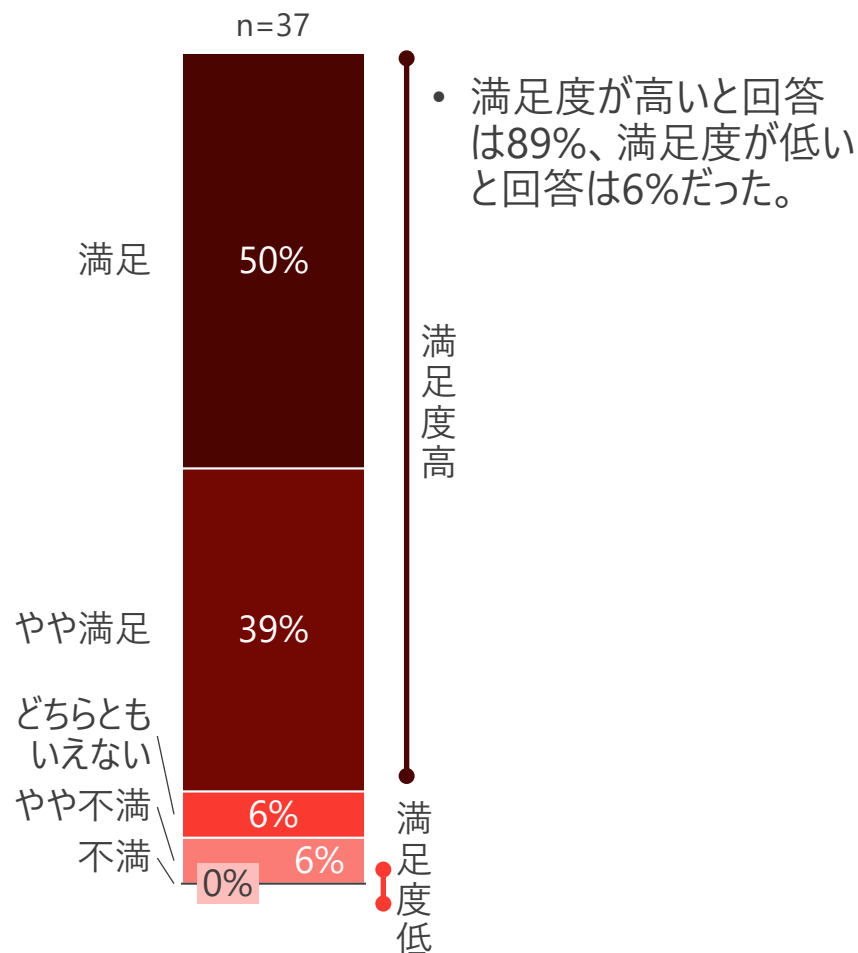
参考になった内容があれば教えてください。



開催後アンケート（2/3）

各地域の取組事例、医療ツーリズムの現状や課題に関する情報共有について好評であり、具体的な取組を参考にできたとの声も多く、実務に関する事例共有が今後も望まれる。

情報提供に対する満足度を教えてください



満足度で選択した理由を教えてください

【医療機関】

- 他医療機関の具体的な取組事例や実証事業の内容を知ることができ、今後の参考になった。
- 医療ツーリズムの現状や課題、外国人患者受入の実態について理解が深まったとの声があった。
- 他院の取り組みや海外の状況を知ることによって、自院で未着手の領域への気づきや今後の方向性を考えるきっかけになったとの意見が見られた。

【渡航支援企業】

- 各地域・各事業者の取り組み事例を知ることができ、業界の現状把握や今後の参考になった。
- 医療ツーリズムの市場動向や課題、国別のニーズなどについて理解を深めることができた。
- 具体的な活動事例やプロモーション方法（SNS活用など）を知ることができ、今後の事業検討の参考になった。

開催後アンケート（3/3）

より具体的な運用や失敗事例から得た学びの共有を、期待する声があった。

ご意見・ご感想

事業内容・ 取組

- 事業立ち上げ時の流れ（人員体制、費用設定の根拠など）や具体的な運用の工夫など、より実務的な内容を知りたい。
- 成功事例だけでなく、失敗事例や課題から得られた学びについても共有してほしい。
- 医療と観光を組み合わせた新たな事業モデル（実証事業で実施をしたコンテンツ以外の治療・検診・旅行等の組み合わせ）の可能性を検討すべきではないか。

市場動向・ 戦略

- 医療インバウンドは中国市場への依存度が高く、政治情勢など外部要因の影響を受けやすいため、ベトナム・タイ・マレーシア等への市場分散が必要ではないか。
- 海外拠点を持つ日本企業の現地社員など、新たなターゲット層へのアプローチの可能性があるのでないか。

事業推進・ 運営

- 医療機関がマーケティングから受入調整まで個別に担うにはマンパワーが不足している。
- 事業者同士の連携やマッチングの機会があるとよい。

6. 本年度事業の振り返り及び次年度事業に向けての 提言

本事業の振り返り

販売対象となる滞在プランの魅力向上、取り組みを推進するコア人材の育成、集客・集患等に向けた情報発信（マーケティング）への積極的な取組が肝要である。

各取り組みにおける改善事項

- 地域の医療・観光資源の強み、他地域との差別化、ターゲットとなる国・対象者のニーズが明確となっていない中で、滞在プランの造成、販売を行っている
- 医療機関の受入体制が不十分で訴求力のあるコンテンツになっていない

- 地域を牽引する人材が不足しており、コア人材がいなくなった場合に取り組みが継続されない場合がある。
- 人材育成をするためのプログラムが十分ではない。

- 集客・集患等に向けた情報発信（マーケティング）が十分に行われておらず、先進国に比べて、認識・ノウハウが劣後している

今後の取り組み

滞在プランの
魅力向上

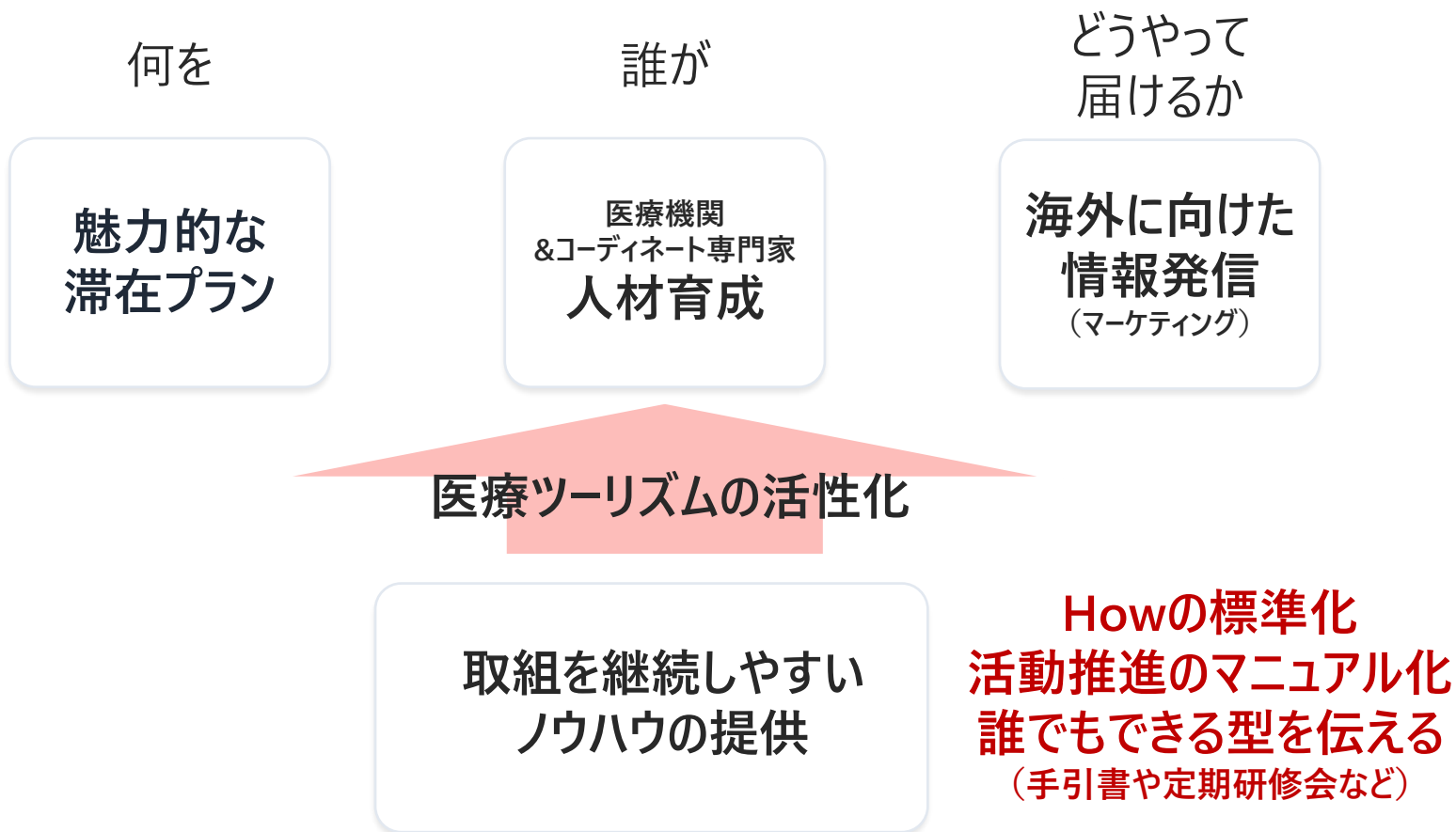
更なる人材育成
(人材基盤の強化)

集客・集患等の
情報発信
(マーケティング)

本事業の主なコンテンツ

地域の医療と観光資源を活用した、医療ツーリズム推進のため、ノウハウの標準化を目指した、手引書の作成や、関係者に認知・活用され、実装するための定期的な研修会の実施が望まれる。

目的：日本における医療ツーリズムの推進に寄与する



人材育成の在り方

地域の医療・観光資源を活用した外国人受入を推進するためには、医療通訳や観光通訳・観光ガイド、また地域を牽引するPMO人材が不可欠であり、実践的な育成プログラムの実施が望まれる。

概要

- 地域の医療・観光資源を活用した外国人受入を推進するためには、医療通訳や観光通訳・観光ガイド、また地域を牽引するPMO人材が不可欠である。
- 医療通訳や観光通訳・観光ガイドの基礎的な育成プログラムは市中にあるため、本事業では実践的な医療ツーリズムに関する通訳人材育成プログラムを実施する。
- PMO人材育成は、手引書の作成と合わせて、短期集中の育成プログラムを検討する。

通訳 人材育成

- R6-7年度実施結果を踏まえて、対象者を医療ツーリズムの実務経験がある、もしくは実務に携わる予定がある通訳者とし、所属団体による推薦をもって、育成プログラムに参加する。
- 医療ツーリズムの基礎的な内容や医療通訳、観光通訳・ガイドの技能は、医療通訳、観光通訳・ガイドの研修を実施している大学・事業者等のプログラムを応用する形で実施。
- 実技経験を積むため、ロールプレイングや医療機関でのOJTを複数回実施し、研修修了時に実技テストを実施、医療ツーリズムを受入れている医療機関の担当者の評価を受け、実務につながる道筋をつける。

PMO 人材育成

- 令和8年度に作成を予定している手引書を基に、PMOに必要な知識をインプットし、事業推進にあたり、必要なネットワークの提供を行う、研修会を実施する。
- 研修会はオンライン、対面で複数回実施し、オンラインでは基礎的な知識のインプットを図り、対面では、医療ツーリズムを受入れている医療機関によるプレゼンテーションを行い、医療機関の医療ツーリズム実務に対する理解を深め、シームレスな受入れにつなげる。